授業科目コード	４１－１	授業科目名	基礎演習Ⅰ	担当教員名	専任教員

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学における勉学や学生生活全般について、基本的な認識を育成する。

授業の目的・到達目標

生活マネジメント専攻における勉学に必要な学習習慣を身につけるとともに、専門教育の基礎となる学力を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	専門教育への導入	生活と健康について講義	
3	専門教育への導入	生活とキャリアについて講義	
4	専門教育への導入	生活とデザインについて講義	
5	専門教育への導入	生活と住まいについて講義	
6	専門教育への導入	生活と心理について講義	
7	専門教育への導入	学術情報センターの活用方法の説明	
8	専門教育への導入	情報検索について講義	
9	専門教育への導入	学外研修の事前講義	学外研修の資料配布
１０	専門教育への導入	学外研修（住まいのミュージアム）	
１１	専門教育への導入	学外研修の報告書作成	
１２	自己啓発ゼミナール	レポートの書き方（記述の順序）について講義	
１３	自己啓発ゼミナール	レポートの書き方（図表の活用）について講義	
１４	自己啓発ゼミナール	レポートの書き方（表記の規則）について講義	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　学外研修の報告書を評価する。 □無し	25　%
試　験	授業最終日に実施する期末テストを評価する。	25　%
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を考慮する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考書・その他〕必要に応じて資料をプリントで配布する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

3 号館 3 階　　443 内線

作成年度：2012

授業科目コード	４１－２	授業科目名	基礎演習Ⅱ	担当教員名	専任教員

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学における勉学や学生生活全般について、基本的な認識を育成する。

授業の目的・到達目標

前期に引続き生活マネジメント専攻における勉学に必要な学習習慣を身につけるとともに、専門教育の基礎となる学力を身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	後期オリエンテーション	学習計画と履修登録	
2	学生生活への支援	先輩からのアドバイス	
3	学生生活への支援	家庭科教諭からのアドバイス	
4	専門教育への導入	生活と心理	
5	専門教育への導入	生活とキャリア	
6	専門教育への導入	生活とデザイン	
7	専門教育への導入	生活と住まい	
8	専門教育への導入	生活と健康	
9	専門教育への導入	生活と社会	
１０	専門教育への導入	学外研修（サントリーミュージアム　天保山）	
１１	専門教育への導入	学外研修の報告書作成	
１２	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
１３	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
１４	自己啓発ゼミナール	コミュニケーション支援	
１５	まとめ	レポート作成・提出	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　　授業中に作成する。 □無し	80　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕必要に応じて資料を配布する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２００８

授業科目コード	４１－３	授業科目名	生活学概論	担当教員名	岸本 幸臣

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人間生活とは、どのような現象なのかを科学的に考察し、私たち人間は何故豊かな生活を求めて前進しようとするのか、その発展のメカニズムと生活発達の特性を概説する。更に、生活学を構成する領域科学の考え方やそれを活かした専門職のあり方を考える。

授業の目的・到達目標

人間生活に特有な、生活の質的上昇志向と世代を継承できる安定的な生活持続への潜在的欲求の想いが、今日の持続可能な社会発展の基本原理となっていることを理解する。また、生活学における個別領域科学の使命と隣接科学のそれとの本質的違いを認識できるようにする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義の概要	生活学を学ぶ目的と生活現象の捉え方	講義時に補足資料配付
2	生活学の歴史(世界)	古代ギリシャ家政論から現代アメリカ家政学へ	同　上
3	生活学の歴史(日本)	江戸期の家道訓から家政学そして生活科学へ	同　上
4	生活と社会の進歩	社会発展に果たす人間生活の上昇志向の特性	同　上
5	社会発展とその功罪	文明の必然性と発展に内在する基本的矛盾	同　上
6	問われる価値観転換	人間生活の新パラダイムとしての「家政原理」	同　上
7	生活学の学問的構成	生活事象を考察するための領域科学の考え方	同　上
8	生活主体の特性	家庭生活の当事者としての家族とその機能	同　上
9	生命維持の手段	人間の健康と生命維持のための食環境の条件	同　上
１０	生活の一義的保護	生物的弱者としての人間の衣環境の条件	同　上
１１	生活の空間的条件	家庭生活の場としての住環境(住まいと居住地)	同　上
１２	生活の支援システム	社会化する生活と支援方法（生活福祉と情報）	同　上
１３	生活の管理と経営	主体と媒体の対応法(生活目標と生活スタイル)	同　上
１４	生活学と専門職	生活学の社会的貢献の必要性とその活動分野	同　上
１５	講義内容のまとめ	生活学の総括整理と定着度確認	同　上

履修上の注意・関連科目等

日々の家庭生活を何気なく送るのではなく、「人間存在の基本である生活現象」として捉え、そこにもっと深い学問的興味と観察力を向けて、家庭生活の意義や特性そして大切さを考える習慣を身につけて下さい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　講義内容の理解度を把握するため、適宜ミニレポートを書かせる。 □無し	20　%
試　　験	期末テストを実施する。	70　%
その他（出席状況等）	出席状況や受講態度は、評価の対象とする。	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕「家政学のじかん」（関西家政学原論研究会編、2011.6）

〔参考書・その他〕「私たちの生活科学」（中根芳一　編著、理工学社、2003.4）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

３号館　　２階　　　　　　内線　421

作成年度：２００９

授業科目コード	４２−１	授業科目名	ライフマネジメント論	担当教員名	小谷　良子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日･時間	開設学科･専攻･コース
専門教育科目 生活の運営	必修科目	1	前期	2	時間割 参照	人間生活学科

授業のテーマ･概要

ライフマネジメント（生活経営）の目標は、個人と家族、家族と社会のそれぞれの必要性の間にみられる矛盾点の克服・調整を可能にし、未来につながる生活力を醸成することである。個人・家庭・地域・社会の生活領域別に事例を適宜紹介しながら、さまざまな生活の事象を全体との関連のなかで捉える。

授業の目的･到達目標

・生活(ライフ)を生命、暮らし、人生という３つの側面から論理的、経験的に理解でき、説明できる。
・日常の個人生活・家庭生活・地域生活・社会生活にみられるさまざまな課題を指摘できる。
・生活課題の解決に向けての主体的な態度をや実践力を養う。

授業内容･授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ﾗｲﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ論の概容	授業概要と文献紹介、授業の進め方を説明する	プリント資料配布
2	生活環境と主体形成	生活者を取り巻く環境と生活者の主体形成	プリント資料配布
3	生活価値観とﾗｲﾌｽﾀｲﾙ	生活価値、生活欲求と生活資源、生活目標など	プリント資料配布
4	生活の社会化と QOL	家庭生活と社会生活の均衡、生活の質への評価	プリント資料配布
5	消費生活と生活経営	生産世界と生活世界からみる消費社会の諸課題	プリント資料配布
6	家庭・家族の機能	家庭の機能・家庭像、家族関係・家族の絆など	プリント資料配布
7	家庭経済と家計管理	家庭経済のしくみ、家計管理のノウハウなど	プリント資料配布
8	生活設計と生活時間	家族員のライフステージと生活時間の配分	プリント資料配布
9	生活空間と親子関係	住空間における生活環境と親子関係の課題	プリント資料配布
１０	地域生活･ガバナンス	地域の課題と地域生活者としての住民参加	プリント資料配布
１１	地域活動と家族	地域活動と主婦・高齢者・子どもの生活	プリント資料配布
１２	地域連携と生活環境	地域・住民・学校の連携と子どもの生育環境	プリント資料配布
１３	老若男女共同参画	少子高齢社会における福祉環境の展望	プリント資料配布
１４	消費者の権利と責任	省消費的・環境醸成的な消費社会の展望など	プリント資料配布
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意･関連科目等

・出席すべき授業数の 2/3 以上出席した者に対して、成績を評価する。
・下記に挙げた参考書に基づいて適宜授業を進めるが、講義資料は必要に応じてプリントを配付する。
・この分野に興味・関心がある人は、前もって参考書の次回該当箇所を読んでおくことを推奨する。
・自らの生活に関連づけて授業内容を理解することに努め、自主的に学ぶ姿勢を重視する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　各回の授業終了時に課す授業内容に関するミニレポートを提出。 □無し	20　%
試　　験	第 15 回目に実施。授業目標に示した観点に基づき評価する。 配布資料・その他のすべてについて、持ち込み不可	60　%
その他（出席状況等）	出席状況（10%）、及び、私語を慎んで主体的に授業に参加する、積極的に意見を発表するなどの授業への参加姿勢（10%）を評価する	20　%

教科書･参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

■小谷良子『主体形成と生活経営』ナカニシヤ出版(2007)。その他の参考書リストは初回授業時に配布。

オフィス･アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所･学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４２－２	授業科目名	ライフマネジメント実習	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	２	後期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

家庭生活は人間が生きる上で大切な基盤である。この家庭生活の意義とそれを豊かにするための生活経営の視点について実習を通して解説する。家庭生活を総合的に捉え主体的に営む力、生活を「つくる」力を育成するために、生活実習室の施設を活用した実践的・体験的な学習（実習等）を行う。現代社会の課題（環境共生等のテーマ）を盛り込んだ学習内容になっている。

授業の目的・到達目標

本授業は、個別に履修している家政学専門領域の知識や技術を関連づけて、実生活に応用できる力の習得を目的としている。また、家庭生活を総合的に捉えマネジメントする視点のほか、人間生活の発展に寄与する暮らし方や生活価値を探求し、理解を深めることも目的としている。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要・進め方／家庭生活・生活経営とは	講義資料
2	家庭生活を考える	家庭生活について様々なテーマで議論する	講義資料
3	食生活を考える	食生活チェック／献立作成の知識／献立作成	講義資料
4	昼食実習①	食材の購入と調理実習（和食）	
5	昼食実習②	食材の購入と調理実習（洋食）	
6	昼食実習のまとめ	実習記録／食生活のマネジメント視点と総合評価	講義資料
7	消費生活を考える	生活費の管理シミュレーション／環境家計簿	講義資料
8	環境と衣生活（実習）	環境に配慮したエコグッズの製作	講義資料
9	人生設計と住生活	住宅選択・住まい方のシミュレーション	講義資料
１０	乳幼児の生活と保育	乳幼児の生活の理解／保育体験（調乳と沐浴）	講義資料
１１	家庭生活の経営	時間・労働・経済等管理と生活価値／模擬家族会議	講義資料
１２	豊かな暮らしの企画	季節・地域性を生かした文化的な暮らし／会食企画	講義資料
１３	豊かな暮らしの準備	会食の準備（テーマ設定）	講義資料
１４	豊かな暮らしの実際	会食の実際	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括（提出物等）	

履修上の注意・関連科目等

グループワークを主体とした実習のため、出席状況・受講姿勢は重要である（欠席・遅刻の多い学生の受講は不可となる）。また、自分の生活の振り返り等の調べ学習も含まれるため、普段から家庭生活事象に興味を持ち、情報収集に心がけるなどして関心を高めておくこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	％
レポート	■有り　　内容等については授業で説明する（調べ学習・実習記録等） □無し	40　％
試　　験		％
その他（出席状況等）	出席状況、授業への取り組みなどの受講姿勢も評価の対象とする。	60　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
　特にありません
〔参考書・その他〕
　授業内で紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号
　３号館　２階　　　　　内線　４２７

作成年度：2011

授業科目コード	４２－３	授業科目名	ライフコース論	担当教員名	岡本 朝也

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現代の社会では、「家族」という概念が大きくゆらぎ、変動しつつある。社会の仕組みや人生のありかたの変化、男女や親子の関係の変化を、ライフコースという概念を使って理解することをめざす。

授業の目的・到達目標

ライフコースの概念を理解し、人々の生活の実態や変化を分析的に理解できるようになることをめざす。具体的には、結婚や就職、ペアレンティングなどのライフイベントの実態と変化を記述できるようになることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	現代のライフコース	20 世紀に生活はどう変わったか	
2	ライフコースとは①	ライフコースとライフサイクル	
3	ライフコースとは②	ライフイベントと役割移行	
4	ライフコースの要素①	時間と年齢	
5	ライフコースの要素②	世代とコーホート	
6	ライフコースの理論	ライフコースの基礎概念のまとめ	
7	現代のライフイベント①	親からの自立①	
8	現代のライフイベント②	親からの自立②	
9	現代のライフイベント③	結婚①	
１０	現代のライフイベント④	結婚②	
１１	現代のライフイベント⑤	親になること①	
１２	現代のライフイベント	親になること②	
１３	ライフコースの研究①	ライフコース研究の歴史	
１４	ライフコースの研究②	ライフコース研究の方法	
１５	まとめ	ライフコース研究からみえること	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　学期末に 800 字程度のレポートを課する □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況を勘案する	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

嶋崎尚子『ライフコースの社会学』学文社（2008 年、1300 円）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４２－４	授業科目名	保育学	担当教員名	水田聖一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	2	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

少子化、核家族化、情報化など子どもを取り巻く環境は大きく変わってきて、人々の価値観や生活様式も多様化してきている。

このような環境の中でどのように子どもの育ちを支えるのかについて様々な角度から考察する。

授業の目的・到達目標

保育の意義や理念、これまでどのような子育てが行われてきたのか、今後の社会の課題について学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	保育の意義と理念		テキスト１章
2	生涯学習社会	子ども期の課題(1)　学習の４本柱	〃２章
3		子ども期の課題(2)　生きる力	〃
4	保育思潮の変遷	(1)　ルネッサンス期の教育思想	〃３章
5		(2)　コメニウスの教育思想	〃
6		(3)　イギリス・フランス・ドイツの教育思想	〃
7		(4)　我が国近代前後の教育思想	〃４章
8		(5)　大正・昭和の教育思想	〃
9		(6)　現代の教育・保育の現状と課題	〃
１０	保育内容の構成	保育内容の構成	〃５章
１１	教育課程と教育評価	教育課程と教育評価	〃６章
１２	乳幼児期の育ち	乳幼児期の育ちと教育・保育の展開	〃７章
１３	保育者の役割	子どもをとりまく環境と教師・保育者の役割	〃８章
１４	教育・保育の課題	教育・保育の課題	〃９章
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読んでおくように。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　適宜小テストを行う。 □無し	10　%
レポート	■有り　　毎回ミニレポートを課す。 □無し	30　%
試　　験	授業最終回に試験を実施する。	50　%
その他（出席状況等）	出席状況を勘案する。	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

生田貞子・石川昭義・水田聖一編『保育実践を支える保育の原理』(福村出版)、2100 円

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４２－５	授業科目名	家族関係学	担当教員名	岡本　朝也

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	2	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

今日、家族をめぐる状況は急速に変化しつつあり、家族の内部もまた大きく変わりつつある。家族にはどのような問題点が潜み、これからどうなっていくのだろうか。家族の内部に存在するいくつもの関係に焦点をあてて、家族の将来像を探ってゆきたい。

授業の目的・到達目標

家族の中にどのような関係があるかを理解し、現代の家族の状態、今後の家族のあり方についての洞察を深められるようになること。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス		
2	家族の変化と関係①	少子高齢化と家族、サポートシステム	
3	家族の変化と関係②	成長と発達課題	
4	ジェンダーの形成	子どものジェンダー形成過程	
5	結婚とパートナー関係	現代の結婚とパートナー関係の変化	
6	高齢化と家族①	高齢期の扶養と自立	
7	高齢化と家族②	ターミナルケア	
8	医療技術と家族	生殖医療と新たな家族関係	
9	育児①	育児と子育て支援	
１０	育児②	ひとり親家族	
１１	DV	DV と家族問題	
１２	家族支援の枠組①	児童相談所と児童入所施設	
１３	家族支援の枠組②	高齢者グループホームと家族会	
１４	家族支援の枠組③	家族とバリアフリー	
１５	家族の将来	個人化と家族	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　800 字程度のレポートを学期末に課する □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況を勘案する	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕山根常男ほか編、『テキストブック家族関係学』ミネルヴァ書房（2800 円）

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2011

授業科目コード	４２－１１ ①	授業科目名	装いとメイクアップ		担当教員名	水野夏子
科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

中国の化粧文化、および中国と日本の化粧文化の比較について講義する。

授業の目的・到達目標

中国の化粧文化の特徴を知るとともに、日本の化粧文化にどのような影響をもたらしてきたのかについて理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	中国の化粧文化①	古代～唐の化粧を講義。	プリント、パワーポイント
2	中国の化粧文化②	唐～清の化粧を講義。	プリント、パワーポイント
3	中国と日本の比較①	中国と日本の化粧文化の比較を講義。	プリント、パワーポイント
4	中国と日本の比較②	中国と日本の化粧文化の比較を講義。	プリント、パワーポイント
5			
6			
7			
8			
9			
１０			
１１			
１２			
１３			
１４			
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語および途中入室、途中退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験	授業最終回に実施。内容・形式等については授業の中で説明する。	70　％
その他（出席状況等）	出席と受講態度を重視する。	30　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕使用しない。プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４２－１１ ②	授業科目名	装いとメイクアップ	担当教員名	黄　貞允

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現在注目されている韓国の化粧文化を、日本と比較しながらその特徴について講義する。

授業の目的・到達目標

同じ東アジアの国であり、日本の隣国である韓国の化粧文化を知ることで、西洋と違う日本と韓国の化粧文化を理解することを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
１０			
１１			
１２	韓国における化粧文化の概要及び歴史	古代から現代に至るまで韓国の各時代における化粧の特徴を講義	プリント
１３	韓方化粧品について	韓国の伝統医学である韓方を用いた化粧方法について講義	プリント
１４	日本と韓国の化粧における趣味の相違について	日本人と韓国人の化粧に対する趣味の相違について講義	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語及び途中入室、途中退室は慎むこと（出席とは認めない）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り v 無し	%
レポート	v 有り □無し	40　%
試　　験	授業最終回に試験を実施する。内容・形式などについては、授業の中で説明する。	30　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加（意見、質問等）を重視する。	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４２－１２	授業科目名	家庭電器・機械	担当教員名	吉田福蔵

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

家庭の機械と電気機器の原理や構造及び安全性、合理性など、生活者の立場から解説する。

授業の目的・到達目標

科学技術の発展により、日常生活における電気機器や機械は新しい方法や良質の材料などが発明、開発されて新製品となる。これらの的確な選択方法や必要な技術知識を習得させ、それを通して生活を豊かにするための工夫、創造力及び実践的な態度を培うこと。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の概要、進め方および機械の歴史、分類	プリント（1）
2	機械の要素と機構	定義、要素、自転車、ミシン	プリント（2）
3	機械の運動伝達	カム、摩擦車、歯車、ねじ	プリント（3）
4	機械材料	種類、金属材料の機械的性質、プラスチック材	プリント（4）
5	電気エネルギーの形	これからのエネルギー、ルームエアコン ヒートポンプの仕組み、冷蔵庫、ＳＩ国際単位系	プリント（5）
6	電気一般	電気の発生、用語と単位、交流の性質、電気回路	プリント（6）
7	直流とオームの法則	抵抗の性質、抵抗率と導電率、温度係数と抵抗	プリント（7）
8	交流とは	周波数、正弦波形、交流の単位	プリント（8）
9	交流回路素子と位相	回路素子の種類、位相角、Ｒ、Ｌ、Ｃ直列回路 交流電力、発熱と電力量	プリント（9）
１０	電流の磁気作用	コイルの磁束、電磁誘導、トランスと電圧	プリント（10）
11	住宅の電気配線	分電盤、漏電遮断器、スイッチ、コンセント 電気の図記号、電気料金の計算	プリント（11）
12	電気と食品の加熱	電熱器具、電気炊飯器、電子レンジ 絶縁材料、導電材料、接点材料	プリント（12）
13	電動機の応用	誘導電動機の原理、扇風機、ヘアドライヤー 洗濯機、温水便座	プリント（13）
14	情報伝達の機器	音の特性、録音、ＣＤ光ビデオ、テレビ、製品の 選択基準、仕様書と取扱説明書、講義の総括	プリント（14）
15	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

各回、プリントを配布するので、次回までに必ず復習すること。携帯電話の電源は、講義前には必ず切ること。授業中の私語は慎むこと。途中入室、途中退室は認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　授業の終了後に小テストを実施する。 □無し	15　％
レポート	☑有り □無し	２０　％
試　　験	内容・形式等については、授業の中で説明する。	５０　％
その他（出席状況等）	出席（授業態度を含む）を重視し、判定に考慮する。	15　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕池本洋一、財満鎮雄共著「標準家庭機械・電気」理工学社
稲見辰夫著「機械のしくみ」日本実業出版社
伊東雅子著「すぐ役立つ家庭の電気百科」成美堂出版　　　など。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２００９

授業科目コード	４２－９	授業科目名	社会福祉論		担当教員名	大坪　勇
科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	２	前期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

社会福祉とは現代社会におけるさまざまな生活問題に対応するものであるが、それは歴史的・社会的状況によって作り出されるものである。本講義では社会福祉の基礎を論じ、さらに人権・生存権保障の視点から、それぞれの社会福祉分野の理念と現状について学ぶ。

授業の目的・到達目標

個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について学習する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	社会福祉の理念	人権尊重、権利擁護、自立支援等	
2	社会福祉の思想と倫理	社会福祉の考え方について	
3	社会福祉の対象と主体	家族概念・変容・構造・役割	
4	社会福祉需要の変容	地域社会の概念と社会福祉との関係	
5	社会福祉の発展	歴史的発展過程について	
6	社会福祉法制の体系	社会福祉六法について	
7	社会福祉の制度体系	六法に基づく制度の体系について	
8	社会福祉の運営組織	施設と地域社会、制度と地域社会	
9	福祉サービスの提供と利用	利用者保護制度について	
１０	社会福祉の財政と費用負担	応能負担と応益負担について	
11	社会福祉における公私の役割、調整	シルバーサービス	
12	地域福祉の概念	地域福祉への参加について	
13	地域福祉の内容	推進組織、担い手	
14	地域福祉計画及び財源	福祉財源とは何か	
15	社会福祉の民間福祉活動	福祉パイロット事業について	

履修上の注意・関連科目等

学生諸氏にあっては講義内容を鵜呑みにすることなく、常に批判的視点を持ち講義に臨まれたい。
また、主体的に講義に参加できる場面を設けるので積極的に論議に参画願いたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	０　％
レポート	□有り ☑無し	０　％
試　　験		８０　％
その他（出席状況等）		２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕『新・介護福祉士養成講座第２巻　社会と制度の理解』
介護福祉士養成講座編集委員会　中央法規　ISBN:978-4-8058-3130-4

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２００９

授業科目コード	４２－１０	授業科目名	コミュニケーション論	担当教員名	全炳昊

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

コミュニケーション「する」ことの意味

授業の目的・到達目標

人間のコミュニケーションを理解する上で、基本的な枠組みを確認する。
そのための、コミュニケーションの構造や形式、意味の仕組み、文化におけるコミュニケーション・ツールなど、具体的事例を通じてコミュニケーション全般を理解する。
コミュニケーションの過去と現在の狭間で、「自分」を見つめることに努める。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	講義の概要	
２	コミュニケーションの初め	基礎概念の紹介	
３	コミュニケーション・ツール１	言語的なコミュニケーション	
４	コミュニケーション・ツール１	非言語的なコミュニケーション	
５	社会とコミュニケーション	「サル」と「人間」のコミュニケーション	
６	文化とコミュニケーション	異文化コミュニケーション	
７	家族	親子間のコミュニケーション	
８	学校	「友達」と「親友」のあいだ	
９	地域社会	「公」と「私」	
１０	メディア１	マス・メディアを考える	
１１	メディア２	パーソナル・メディアの変遷	
１２	発表・討論	自己表現のコミュニケーション	
１３	発表・討論	自己表現のコミュニケーション	
１４	発表・討論	自己表現のコミュニケーション	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　験	最終授業時に実施。内容・形式などについては、授業中に説明する。	60 %
その他（出席状況等）	出席、講義中の提出物	40 %

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕
講義中に提示する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　階　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４３－１	授業科目名	衣生活論	担当教員名	喜多エイ子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	1	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

モノに恵まれ、価値観が多様化した現代社会では、衣服を選択・着用する基準として、実用性よりも個人の嗜好性や自己表現性が重視される傾向がある。人間が衣服を着て暮らすとはどのようなことなのか、これからの衣生活はどのような方向へ進むのかなどについて講義する。

授業の目的・到達目標

私たちが衣服に対して求める多面的な欲求に関する基礎知識を学び、これからの好ましい衣生活のあり方を考える能力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	テキスト
1	衣服と生活	衣服の機能	pp1
2		衣服の起源と変遷	pp2～5
3		消費行動の動向、着用行動	pp6～10
4	着装の心理	着装の要因、衣服と印象	pp11～22
5		衣服の象徴性、流行	pp23～33
6	衣服の素材	繊維、衣服に必要な性能、新素材	pp62～98
7	衣服と健康	快適性（人体生理、衣服圧、衣服内気候）	pp34～46
8		安全性（皮膚障害、静電気障害、燃焼性）	pp47～53
9		機能服（乳幼児、高齢者、障害者）	pp54～61
１０	衣服の管理	衣服の汚れ、素材の性能変化	pp99～102
１１		洗濯、漂白、保管	pp103～128
１２	衣服の製造と消費	アパレル産業と衣生活、生産と輸入	pp129～132
１３		衣服と表示、衣服の使用実態	pp133～147
１４		衣服と環境	pp148～152
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

毎回、指示されたテキストの範囲を予習すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	20 ％
レポート	□有り ☑無し	％
試　　験	授業最終回に実施する。	60 ％
その他（出席状況等）	出席態度、受講態度を重視する。	20 ％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

小林茂雄他「衣生活論　装いを科学する」アイ・ケイ コーポレーション、1995 円

〔参考書・その他〕

適宜、紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号 3 号館　3　階　　　　内線 442	

作成年度：2012

授業科目コード	４３－２	授業科目名	アパレル素材論	担当教員名	清水尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	３	後期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

アパレル(衣服)を製造・販売する側にも、選択・購入する側にも、基礎知識として役立つ布地の構成や特性および外観的イメージについて講義する。

授業の目的・到達目標

繊維・糸・織り方・編み方・仕上げ・加工等々の布地を構成している要素が、衣服の製服性・着用性から色・柄（模様）・光沢・透明感などによる表現性にまで連係していることを、衣服形態の変遷と共に理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
２	衣服デザイン教育Ⅰ	衣服の役割について講義	
３	衣服デザイン教育Ⅱ	衣服の起源について講義	
４	素材の種類	織物・編物・皮・毛皮等について講義	
５	素材の特性Ⅰ	繊維と糸について講義	
６	素材の特性Ⅱ	糸と布について講義	
７	素材の構成Ⅰ	織柄の組織図について講義	
８	素材の構成Ⅱ	織柄のデザインについて講義	
９	素材の評価	布の風合について官能検査	
１０	素材の模様Ⅰ	模様の種類について講義	
１１	素材の模様Ⅱ	織柄について講義	
１２	素材の模様Ⅲ	染柄について講義	
１３	衣服形態の変遷Ⅰ	西洋の服装について講義	
１４	衣服形態の変遷Ⅱ	日本の服装について講義	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

①配布プリントのみ持ち込み可能で試験を実施するので、プリントの管理を怠らないこと。
②項目ごとに、内容の要約と理解度チェックのための練習問題を実施する。
③授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	□有り ☑無し	％
試　　験	授業最終日に実施する期末テストを評価する。 （配布プリントのみ持ち込み可能）	50　％
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を考慮する。	50　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考書・その他〕必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

3 号館 3 階　　443 内線

作成年度：2012

授業科目コード	４３－３	授業科目名	アパレル実習	担当教員名	喜多エイ子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

衣服の設計・製作の理論と技術を習得する。

授業の目的・到達目標

シャツ製作を通して、衣服製作に必要な基礎知識と技術を習得するとともに、既製服を選択・購入する能力を身につけることをねらいとする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	実習の概要、進め方などを説明	
2	衣服の名称と分類	被覆部位、被覆形式、生産形式等	
3	パターンメーキング	人体の構造、人体計測、胴部原型作図	
4		胴部原型→デザイン展開	
5		袖・衿の製図、用尺の見積もり、材料の選定	
6	仮縫いの準備	地直し、縫い代の設定、印つけ	
7		仮縫い合わせ	
8	試着・補正	型紙の整理、縫い代の始末	
9	本縫い	身頃作り①（ヨーク、ダーツ、前立て）	
１０		身頃作り②（脇縫い、裾・衿ぐり・袖くりの始末）	
１１		衿作り	
１２		衿付け	
１３		袖作り、袖付け	
１４		ボタン付け、ボタンホール、ポケット	
１５	まとめ	完成作品と製作レポートを提出	

履修上の注意・関連科目等

欠席等による作業の遅れは、次週までに各自で調整すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　　製作レポート（完成作品と同時提出） □無し	70　%
試　　験	無し	%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度を重視する。	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
プリントを配布する。
〔参考書・その他〕
適宜、紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号
3号館　3　階　　　　内線　442

作成年度：2012

授業科目コード	４４－２	授業科目名	スローフード論	担当教員名	藤田 武弘

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	２	前期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

国際化の進展により，わが国の食料流通システムは大きく変化し，世界各国･地域から安価で大量の農産物･食品が輸入されている。一方で，食の安全性確保や食の「外部化（外食や中食への依存）」によって喪われた「食（消費）」と「農（生産）」との関係性を見直そうとする動きも拡がっている。本講義では，「地産地消」や「スローフード」など，効率性一辺倒の従来型システムとは異なる動きに焦点を当てて，その生産と流通の特徴，ならびに現代的意義を講述する。

授業の目的・到達目標

生活に最も身近な「食」に潜む様々な問題の発見を通じて，現代社会や経済の動向を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義ガイダンス	現代日本の食と農に関わる問題点を概説	配布プリント
２	食料供給システム	国際化の進展と食料自給率の行方を講義	配布プリント
３	食の環境変化①	安全･安心の確保をめぐる諸問題を講義	配布プリント
４	食の環境変化②	外部化（外食･中食依存）に伴う諸問題を講義	配布プリント
５	食と農との関係①	食とその基盤である農業との関係を講義	配布プリント
６	食と農との関係②	都市農村交流の新たな動向について講義	配布プリント
７	日本の地産地消	日本での定義・特徴・意義について講義	配布プリント
８	世界の地産地消	世界各地の食のローカリズムの特徴を講義	配布プリント
９	農産物直売所の実態	農産物直売所の開設経緯と展開状況を講義	配布プリント
１０	農産物直売所の役割	農産物直売所の意義と波及効果を講義	配布プリント
１１	学校給食の意味	食育基本法と学校給食の現状・課題を講義	配布プリント
１２	地域特産とブランド	地域特産加工品の原料調達の特徴を講義	配布プリント
１３	スーパーの仕入	スーパーの食品仕入れ構造と特徴を講義	配布プリント
１４	スーパーの販売	スーパーの食品化戦略の特徴を講義	配布プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

履修希望者は，第１回目の講義ガイダンスに必ず出席すること。毎回，配布されたプリント・資料等（すでに配布されたものを含む）を持参すること。また，講義中の私語および途中入退室は出席とは認めないので，厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	％
レポート	■有り　　毎回講義終了時に「ミニレポート」を提出すること。 □無し	30 ％
試　　験	最終の講義時に実施する。内容・形式等については講義中に説明する。	50 ％
その他（出席状況等）	時間中の発言・質問など講義への「参加度（積極性）」を評価する	20 ％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

とくに定めない。

〔参考書・その他〕

橋本卓爾･山田良治･藤田武弘･大西敏夫編著『都市と農村』日本経済評論社，2011 年。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４４－３	授業科目名	クッキング	担当教員名	髙谷 小夜子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	２	前期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

食物は、健康な生活を営む上で不可欠なものです。安全で、栄養的に満たされ、食べる人の嗜好にあい、しかも経済的な料理を提供できるように身近な食品での実習を行います。

授業の目的・到達目標

基礎的な調理技術を習得し、安全に食品を取り扱う方法を学びます。同時に食事のマナー、後片付けなど基本的な生活習慣を身につけることを目的とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	班分け　実習説明等	
２	和食の基本１	ご飯の炊き方、ダシのとり方など	
３	和食の基本２	塩味のご飯の炊き方､混合一番だしのとり方など	
４	和食の基本３	しょうゆ味のご飯の炊き方、魚のさばき方など	
５	和食の基本４	天ぷら（下ごしらえ、揚げ方など）寒天の調理	
６	和食の基本５	焼き魚、和え物、葛餅	
７	和食の基本６	すし飯の作り方、希釈卵（茶碗蒸し）など	
８	洋食の基本１	スープストックのとり方、	
９	洋食の基本２	パスタのゆで方、焼き菓子	
１０	洋食の基本３	ピラフ、スープ、クッキー	
１１	洋食の基本４	ホワイトソースの作り方、ゼラチンの扱い方	
１２	中国料理１	湯のとり方、肉団子の甘酢あんかけ、蒸しケーキ	
１３	中国料理２	青椒肉絲、スープ、杏仁豆腐	
１４	中国料理３	シュウマイ、春巻き、ゴマ団子	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

決められた実習の服装で臨むこと（守らないときは受講できない）
遅刻厳禁
2 講時の連続した授業です（途中休憩なし）

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り　　実習ノートを作成し提出すること □無し	３０　％
試　　験	内容、形式は授業中に説明	４０　％
その他（出席状況等）	出席を重視する。実習中の態度・服装なども評価の対象とする	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「調理学実習」　大谷貴美子・饗庭照美編　講談社サイエンティフィク　2940 円
〔参考書・その他〕
「プロ仕込み　包丁テクニック図解」　（株）大泉書店　　1575 円

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２００７

授業科目コード	４５－１	授業科目名	ハウスプランニング	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	1	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本授業では家政学における住居学の基本的な内容を講義する。住居学を構成する分野のうち、住文化・住様式、住居計画、住環境工学、居住管理、居住政策についてとりあげる。それらを家庭生活との関わりから考察し、豊かな住生活を提案するために必要な基礎的知識や視点を概説する。

授業の目的・到達目標

家政学の住居学の基本的内容を理解し、豊かな住まい・住環境を実現させるための住まい方、および設計条件や社会条件等について、総合的に考慮した提案ができる。また、客観的な知見と主体的な考察をもとにして、これからの住生活のあり方について述べることができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方の説明／住居学とは	講義資料
2	住まいの機能	住まいの役割	P16-17
3	住まいの歴史(1)	日本の庶民住宅の変遷（古代～近世）	P22-31
4	住まいの歴史(2)	日本の住宅の近・現代の特徴	P32-35
5	住まいと生活様式	起居様式の特徴、日本の民家の特徴	P14-15、30-31、38-139
6	平面計画の理論	公私室理論・平面タイプ・生活行為と住空間	講義資料
7	住まいの公私空間	家族の生活と私室・公室の意義や特徴	P12-13、134-137
8	家族と住まい(1)	家族の変化・多様化と住まい・居住環境	P52-63、132-133
9	家族と住まい(2)	高齢者と住まい・居住環境	P94-113
１０	室内環境(1)	快適で健康な音・光環境の条件	P70-73
１１	室内環境(2)	快適で健康な風・熱環境の条件	P66-69
１２	住まいの維持･管理	住まいの維持・管理の意義と内容	講義資料
１３	快適な居住環境	快適で持続可能な居住環境・まちの条件	P80-91
１４	住まいの問題と政策	日本の居住問題と居住政策の特徴、居住の権利	講義資料
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

住生活・住空間・住環境に関するニュースや新聞記事等に注目し、情報収集（住宅プランを集める、本を読む等）に心がけるなどして関心を高めておきましょう。なお、本授業は「教職課程（家庭科）」および「インテリア設計士」に必要となります。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　講義内容の理解度を把握するため、適宜レポート課題を実施する。 □無し	15　%
試　験		70　%
その他（出席状況等）	出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。	15　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「図解住居学１　住まいと生活」（図解住居学編集委員会編、彰国社、2011 年）
〔参考書・その他〕
授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

３号館　２階　　内線　４２７

作成年度：2011

授業科目コード	４５－２	授業科目名	インテリアコーディネート論	担当教員名	宮﨑　陽子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	２	前期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本授業では、より美しく快適な住空間を構成するために必要なインテリアの基礎的知識について講義をする。インテリアデザイン史、インテリア計画、材料、構造、設備機器、関連法規・法令などについて幅広く解説し、生活者の視点からみた好ましいインテリアとは何かについて共に考察していく。

授業の目的・到達目標

インテリアコーディネートに関する基礎的知識の習得が目的である。具体的には、①インテリア関連の基礎的内容を理解し説明ができる。①住み手と住宅供給側の求める条件を総合的に理解できる。②アメニティの高いインテリアデザインを実現するための空間課題を考え、自分なりの提案ができる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要等の説明／インテリアとは	講義資料
2	住まいと風土	世界各地の風土と住まいのデザイン等の関係	P10-11
3	インテリアの歴史(1)	日本のインテリアと建築の歴史（古代～近世）	P22-31
4	インテリアの歴史(2)	西洋のインテリアと建築の歴史（古代～近世）	(P38-45)
5	インテリアの歴史(3)	近・現代のインテリア／インテリアスタイル	P34-35、P46-49
6	インテリアと人間	人間工学と家具・インテリアの関係	講義資料
7	色彩計画	住まいの色彩計画の方法と効果	P74-75
8	照明計画	住まいの照明計画の方法と効果	P72-73
9	住宅各室の計画	住宅各室のインテリア・家具計画	(P16-17)
１０	インテリアと構法	住宅の建築構造の種類・特性・インテリア構成	P118-123
１１	インテリアと材料	インテリアの構成材料の特性	P116-117
１２	インテリア関連設備	快適な室内環境のために必要な設備とその計画	講義資料
１３	住まいの安全・健康	安全・健康な室内空間の条件	講義資料
１４	インテリア関連法規	インテリア関連の法規・法令や制度の基礎知識	講義資料
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

インテリアに関する知識や技術を深めるためには、日常生活の中で常に新しい家具やデザインに接することが大切です。そのため、積極的に新しいインテリアデザインを体験できる場に足を運んだり、書籍・雑誌などに目を通したりして、インテリア・家具に関する情報収集をして下さい。なお、本授業は「教職課程（家庭科）」および「インテリア設計士」に必要となります。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　講義内容の理解度を把握するため、適宜レポート課題を実施する。 □無し	15　%
試　　験		70　%
その他（出席状況等）	出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。	15　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

「図解住居学１　住まいと生活」（図解住居学編集委員会編、彰国社、2011 年）

〔参考書・その他〕

『インテリア設計士テキスト＜学科編＞』加藤力他・日本インテリア設計士協会・2,000 円　など

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

３号館　２階　　　　　内線　４２７

作成年度：2011

授業科目コード	４５－３	授業科目名	ハウスプランニング実習	担当教員名	宮﨑　陽子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	選択必修科目	1	後期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本授業では、立体的な住空間を 2 次元上に表現することの意義・役割を解説し、住宅図面を描く際に必要となる設計製図の初歩的技術について指導する。また、実習を通して受講生が快適で住みやすい住宅・住空間を図面として提案できることをめざし、製図技術のほか、空間把握力・設計計画力・創造表現力・プレゼン技術などの習得を目的とした課題を段階的に提示し解説してゆく。

授業の目的・到達目標

住宅図面を描くための基礎的な約束ごとを正確に身につけることが到達目標である。

①住宅図面の模写・設計作業を通して、住宅図面が示す様々な空間情報を正確に理解できる。

②住宅図面の描き方や作図技術を身に付け、第 3 者に空間情報が正確に伝わるような図面を描ける。

③住宅図面から三次元空間をイメージでき、自分が思い描く住まいを平面図上に表現できる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業概要／製図の目的／図面の解説／用具の解説	講義・課題資料
2	直線の練習	線の種類･描き方の解説／直線と製図用文字を描く	講義・課題資料
3	曲線の練習	円の描き方の解説／曲線の図形を描く	講義・課題資料
4	表示記号の練習	平面表示記号の模写／出入口･窓･設備・家具等を描く	講義・課題資料
5	平面図の基礎練習(1)-①	住空間の平面図（S=1:50）の模写	講義・課題資料
6	平面図の基礎練習(1)-②	上記の続行作業と着色仕上げ	講義・課題資料
7	平面図の基礎練習(2)-①	木造住宅の平面図の模写(1)　（主要設備家具含む）	講義・課題資料
8	平面図の基礎練習(2)-②	上記の続行作業と仕上げ・完成	講義・課題資料
9	配置図の基礎練習(1)	配置図の模写と庭園設計の練習	講義・課題資料
１０	住宅の自由設計　①	①設計条件と構想：設計概要／ラフスケッチ作業開始	講義・課題資料
１１	住宅の自由設計　②	②ラフスケッチ　：ラフスケッチ完成／平面図の作成	講義・課題資料
１２	住宅の自由設計　③	③平面図の完成　：平面図の作成（続行作業）	講義・課題資料
１３	住宅の自由設計　④	④配置図の完成　：配置図の作成／想定家具カタログ	講義・課題資料
１４	住宅の自由設計　⑤	⑤プレゼンボード：設計趣旨の作成とプレゼンボード	講義・課題資料
１５	まとめ（総評会）	⑥作品発表会　　：最終作品のプレゼンテーション	講義・課題資料

履修上の注意・関連科目等

快適でデザイン的にも優れた住宅設計の提案をするためには、数多くの優れた住宅プランに触れてそれらを沢山模写したり、関連する情報収集を積極的に行ったりし、自分のデザイン感性を高めておくことが大切です。なお、本授業は「教職課程（家庭科）」および「インテリア設計士」に必要となります。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験		70　%
その他（出席状況等）	出席状況や受講姿勢も評価の対象とする。	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

「インテリア設計士テキスト〈実技編〉」(加藤力他編著､日本インテリア設計士協会､2005 年) 1,200 円

〔参考書・その他〕　授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

３号館　２階　　　　　内線　４２７

作成年度：2011

授業科目コード	４６－１	授業科目名	生活と環境（生活環境論）	担当教員名	鶴保謙四郎

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門基礎科目	必修科目	２	前期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

生活者の立場から、生活と環境を考察する。日常生活を取り巻く環境、食などを科学するもので、地球温暖化や水質汚濁、大気汚染、廃棄物問題、食の安全などをできるだけ平易に解説する。また、最大の環境問題でもある地球の人口爆発についても紹介する。

授業の目的・到達目標

将来社会人として、自主的に環境にやさしい生活(環境負荷の低減を目指す社会生活や家庭生活)や、かしこい食生活を営むことができることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	授業の進め方、評価の行い方等授業方針の説明	プリント有
２	地球の温暖化	原因・現状、社会的な取り組み等	〃
３	水と生活	飲料水等生活用水と水質汚濁	〃
４	食の安全Ⅰ	食品添加物、食品表示等	〃
５	食の安全Ⅱ	食品汚染物質	〃
６	食の安全Ⅲ	食物アレルギー、BSE、遺伝子組み換え食品	〃
７	農薬と化学物質	農薬や化学物質の使用の実態と意義	〃
８	大気汚染	酸性雨やオゾン層の破壊について	〃
９	環境ﾎﾙﾓﾝ・ﾀﾞｲｵｷｼﾝ	過去・現在・将来	〃
１０	各種の環境問題	土壌汚染や地下水汚染等について	〃
１１	地球環境の保全	病める地球について	〃
１２	ゴミ問題	一般廃棄物の問題点と対策	〃
１３	循環型社会の構築	持続ある発展その一歩は廃棄物から	〃
１４	安全･環境リスクと生活の質	リスクの要因と対処の仕方	〃
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	〃

履修上の注意・関連科目等

私語及び携帯電話厳禁、途中入室、途中退出を慎むこと。
出席回数は、全体の 2/3（10 回）以上を基本とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑無し	０ ％
レポート	☑有り　　課題は授業中に示す。	２０ ％
試　験	実施する。	４０ ％
その他（出席状況等）	受講態度を評価する。	４０ ％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
　使用しない
〔参考書・その他〕
『環境･エネルギー･健康 20 講－これだけは知ってほしい科学の知識』今中･廣瀬著、化学同人
　環境省・厚生労働省等の HP

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４７－１	授業科目名	発達心理学	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	必修科目	1	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人間の発達についてさまざまな現象を収集、整理し、その法則や原理をどの年齢段階の発達にも適応できるように研究する学問であるため心理学的側面から考察していく。

授業の目的・到達目標

子どもの教育や援助には子どもの発達段階に応じて何が主要な課題であるのかを把握することが重要となるため乳児から青年までのそれぞれの発達課題とそれに応じた子どもの援助のあり方を学んでいくことに重点をおき講義を進めたい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	発達とは	発達の傾向と発達段階	プリント
2	乳児期の発達段階	胎生期・胎児期・乳児期の心身の発達	プリント
3	乳児期の発達課題	乳児期の愛着関係と母子関係	プリント
4	幼児期の発達段階	幼児期前期・後期の心身の発達と遊び	プリント
5	幼児期の発達課題	幼児期前期・後期の自主性と自己コントロール	プリント
6	児童期の発達段階	児童期前期・後期心身の発達と仲間関係	プリント
7	児童期の発達課題	児童期前期・後期の恥とコンピテンス	プリント
8	思春期の心身の発達と発達課題	思春期の葛藤と自己受容	プリント
9	青年期の心身の発達と発達課題	自己アイデンティとアイデンティ拡散	プリント
１０	知的機能の発達	記憶の発達、思考の発達と教育	プリント
１１	社会性の発達	親子関係とコミュニケーションの発達、ソシオﾒﾄﾘｰ	プリント
１２	感情の発達	感情発達の理論と発達的変化	プリント
１３	道徳行動の発達	道徳行動の認知的発達段階	プリント
１４	パーソナリティの発達	パーソナリティの発達の形成とメカニズム	プリント
１５	まとめ	全体の理解度と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	１０　％
レポート	□有り □無し	１０　％
試　　験		５０　％
その他（出席状況等）	出席と授業参加度を重視する	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１１

授業科目コード	４７－２	授業科目名	青年期と心	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	２	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

青年期の一番重要な課題は第２次性徴と自己アイデンティの確立である。身体の成熟に伴い、身体への意識の高まりやさまざまな人間関係から自分自身への認識への深化といった、青年期の課題に焦点をあてて講義する

授業の目的・到達目標

青年期は、子どもから成人への移行期でもあるため、心身とも大きく変化する時期である。心理的に情緒が不安定になりやすい。ところが、この時期の重要なことはこの時期をどのように過ごすかは、その後の人生に大きな影響を及ぼす。受講生は青年期を生きる人達であるため自己理解を深めながら自分らしさや自己のあり方を模索できるようにグループカウンセリングも取り入れて講義していきたい

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	授業の内容や進め方など説明	プリント他
２	青年期とは	第２次性徴に伴う心身の変化	プリント他
３	青年期の特異性	現在青年の心身をめぐる諸問題	プリント他
４	青年期の発達課題	アイデンティティをめぐる問題	プリント他
５	性的成熟（１）	異性関係	プリント他
６	性的成熟（２）	男らしさ、女らしさ	プリント他
７	青年期の自己（１）	自分とはなにか	プリント他
８	青年期の自己（２）	どんな自分になりたいか	プリント他
９	友人関係（１）	友人関係の意義	プリント他
１０	友人関係（２）	友人関係における諸問題「	プリント他
１１	自律性と愛着	親子関係と諸問題	プリント他
１２	青年期の諸問題（１）	事例を中心に	プリント他
１３	青年期の諸問題（２）	事例を中心に	プリント他
１４	青年期後期以降の問題	青年期後期の心理的諸問題を中心に	プリント他
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・ 内容に応じて、簡単な実習を取り入れるので、積極的に参加してください
・ 出席しても聞いていないなど受講態度が悪い場合は厳しく対応する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	□有り ☑無し	％
試　　験		６５　％
その他（出席状況等）	毎回の出席状況より判断する	３５　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕なし
〔参考書・その他〕紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１０

授業科目コード	４７－３	授業科目名	高齢者の心理	担当教員名	福嶋 正人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	２	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

我が国では少子高齢化が急速に進んでいる。特に高齢者に対する社会的サポートの整備が急務である。しかし制度の充実だけでなく、高齢者の特徴や心理について理解することが高齢社会を迎えるにあたり、大切である。講義では高齢者の抱えがちな問題を通して高齢者の心理について理解を深める。

授業の目的・到達目標

高齢者の特徴や心理面を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
１	オリエンテーション	講義の概要、進め方など説明する。	
２	少子高齢化社会とは	少子高齢化社会について理解する。	
３	高齢者について（１）	高齢者とはなにかを考える。	
４	高齢者について（２）	発達を通して高齢者を理解する。	
５	高齢者の個別性について	個別性を通して高齢者に対する理解を深める。	
６	高齢者の特徴	心理面、身体面の特徴について理解する。	
７	高齢者を取り巻く社会環境の変化	社会環境の変化を通して高齢者の生活を理解する。	
８	高齢期の疾病	高齢者の抱えがちな疾病を通して高齢者を理解。	
９	認知症	認知症についての理解を通して高齢者を理解する。	
１０	高齢期の心理的特性	高齢期の心理的な特性について理解する。	
１１	高齢期の社会・心理面の変化	心理面でおこる変化について理解する。	
１２	老化、疾病による心理面の影響	心理面でおこる変化について理解する。	
１３	高齢者と地域、家族の関係（１）	地域との関係を通して高齢者の心理を理解する	
１４	高齢者と地域、家族の関係（２）	家族との関係を通して高齢者の心理を理解する	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキストは指定しない。私語及び途中入退室は厳に慎むこと。座席を指定する。講義中は携帯電話の電源は切ること。メール、電話が鳴動した場合、退室を命じる。授業態度が悪い場合は欠席扱いにする場合もある。講義は基本的にパワーポイントを用いて行い、適宜レジュメを配布する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り　随時、授業の中で課題を提示する。 □無し	３０％
試　験	内容・形式については、授業の中で説明する。	４０％
その他（出席状況等）	出席状況、授業への参加態度など。	３０％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
特に指定しない。
[参考書・その他]
適宜紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２００９

授業科目コード	４７－４	授業科目名	教育心理学	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	１	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

教育に関する多くの課題に対して、いかにして教育効果を高めるかである、そのためにはどのような心理学的知見や技術を用いるかである。教育効果を高める講義を展開していく。

授業の目的・到達目標

子どもの教育において、効果的な学習とはどのようなものなのか、また、どのように子どもと関わり、働きかけをしていくのかを考慮するのには子どもの発達や課題を把握することが重要となる。そのため子どもの発達に応じた子どもの援助のあり方を学んでいくことに重点をおき講義を進めたい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	動機づけ理論	内発的動機と外発的動機について	プリント
２	均衡化理論	均衡と不均衡についての理論の説明	プリント
３	学習における賞罰の効果	達成動機と賞罰の限界について	プリント
４	学習の過程と課題分析	学習の構造の説明と課題の達成	プリント
５	発達の最近接領域	課題解決のための発達の水準について	プリント
６	学習方式	さまざまな学習方法について	プリント
７	教授方法	実際の授業実践	プリント
８	集団規範	いい学級集団の特質	プリント
９	リーダーシップ訓練	集団の目標達成と維持機能について	プリント
１０	ソシオメトリー	人間関係発見の方法	プリント
１１	教育評価（１）	教育評価の目標と方法	プリント
１２	教育評価（２）	学力とその評価	プリント
１３	現代の教育問題（１）	いじめの問題と教育心理学	プリント
１４	現代の教育問題（２）	不登校の問題と教育心理学	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り（選択） □無し	１０　％
レポート	□有り（選択） □無し	１０　％
試　　験		５０　％
その他（出席状況等）	出席と授業参加度を重視する	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１１

授業科目コード	４７－５	授業科目名	臨床心理学	担当教員名	堀口　真宏

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門教育科目 人間と心理	必修科目	2	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人が生きている中で起こりうる心理的問題に対しての理解とそのような問題に対して実際にどのような援助が可能なのかを考える。

授業の目的・到達目標

臨床心理学的問題（例えば、2011 年３月に起こった東日本大震災に対する心のケアや不登校・いじめ、うつ、自殺、虐待、摂食障害、リストカット、心の居場所など）について各自が興味をもったテーマについて調べて発表をする。その後にディスカッションを行い、理解を深めることを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	オリエンテーション	
2	講義	臨床心理学とは	プリント
3	講義	インテーク面接と心理アセスメント	
4	講義	心理療法について	
5	演習	発表とディスカッション	
6	演習	発表とディスカッション	
7	演習	発表とディスカッション	
8	演習	発表とディスカッション	
9	演習	発表とディスカッション	
１０	演習	発表とディスカッション	
１１	演習	発表とディスカッション	
１２	演習	発表とディスカッション	
１３	演習	発表とディスカッション	
１４	演習	発表とディスカッション	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。履修者の人数状況や進行状況により授業内容を適宜変更する場合もあるので留意されたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	60　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席と授業態度	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
　特になし
〔参考書・その他〕
　特になし

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

　号館　　階　　　　内線

授業科目コード	４７－６	授業科目名	障害者の心理	担当教員名	福嶋 正人

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	２	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現代においては障害がある人たちの社会参加の促進や、障害の有無による差別や偏見を排除することが社会的な課題である。障害に対する正しい理解と社会的不利、無理解を解消することが大切である。

授業の目的・到達目標

障害の特徴や心理面を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
１	オリエンテーション	講義の概要、進め方など説明する。	
２	ノーマライゼーション思想	ライフサイクル、ライフヒストリーの視点を通して考える	
３	「障害」の特徴（定義、原因、行動特性）	障害の特徴等について理解を深める。	
４	身体障害、知的障害、精神障害について	各障害を概観する。	
５	障害者の個別性について	個別性を通して障害者に対する理解を深める。	
６	障害者の特徴	心理面、身体面の特徴について理解する。	
７	障害者を取り巻く社会環境の変化	社会環境の変化を通して障害者の心理を理解する。	
８	障害期の社会的不利について	障害者の抱えがちな社会的不利について理解する。	
９	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞからみた障害者の心理	ﾗｲﾌｽﾃｰｼﾞを通して障害者の生活を考える。	
１０	発達障害について	学習障害、ＡＤＨＤ、広汎性発達障害、高機能自閉症、アスペルガー症候群等について理解する。	
１１	障害者の心理的特性	障害者の心理的な特性について理解する。	
１２	障害者の社会・心理面の変化	心理面でおこる変化について理解する。	
１３	障害者と地域、家族の関係（１）	地域との関係を通して障害者の心理を理解する	
１４	障害者と地域、家族の関係（２）	家族との関係を通して障害者の心理を理解する	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキストは指定しない。私語及び途中入退室は厳に慎むこと。座席を指定する。講義中は携帯電話の電源は切ること。メール、電話が鳴動した場合、退室を命じる。授業態度が悪い場合は欠席扱いにする場合もある。講義は基本的にパワーポイントを用いて行い、適宜レジュメを配布する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り　随時、授業の中で課題を提示する。 □無し	３０％
試　　験	内容・形式については、授業の中で説明する。	４０％
その他（出席状況等）	出席状況、授業への参加態度など。	３０％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　特に指定しない。

[参考書・その他]

適宜紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２００７

授業科目コード	４７－７	授業科目名	性格分析	担当教員名	堀口　真宏

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人の性格というものはどのように形成されるのかについて考えたことはあるだろうか。本授業では、様々な角度から性格を理解するための理論について講義を行い、さらには実際に心理テストを実施して頂く。その体験を大切にしながら、人のこころを理解する試みることを目的とする。

授業の目的・到達目標

性格という目にみえないものを理解するにあたって、心理テストというものがどのような役割を果たすのかについて考えていく。また、「自分を知る」というプロセスを通じて、様々な性格の見方を体験することを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	講義の大まかな内容、進め方について	
2	性格とは①	まずは自分の性格について考えてみよう	
3	性格とは②	性格の様々なとらえ方	
4	性格とは③	性格の類型論について知る	
5	心理テストについて	性格分析に使われる心理テストの基礎知識	
6	性格分析の実際	東大式エゴグラム（ＴＥＧ）を実施する	
7	性格分析の実際	ＴＥＧを基に性格傾向を分析する	
8	性格分析の実際	ＹＧテストを実施する	
9	性格分析の実際	ＹＧを基に性格傾向を分析する	
１０	性格分析の実際	Ｐ－Ｆスタディを実施する	
１１	性格分析の実際	Ｐ－Ｆスタディを基に性格傾向を分析する	
１２	性格の発達	性格はどのように形成されるのか	
１３	家族・人間関係と性格	周囲との関係で性格はどう変わるのか	
１４	血液型と性格	血液型は本当に性格と関係があるのか	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。さらに、遅刻・欠席でテスト体験をされていないと、レポートも書けず大幅減点となるので留意すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　各授業の後に簡単な感想レポートを書いてもらう □無し	30　%
レポート	■有り　　各心理テストについてのレポートを求める □無し	50　%
試　　験	なし	%
その他（出席状況等）	出席と授業態度を重視する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

特になし。授業の中で必要なときに配布する。

〔参考書・その他〕

適宜授業の中で紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2011

授業科目コード	４７－８ ①	授業科目名	セラピーの実際 (コスメセラピー)	担当教員名	小林　美枝子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目	選択科目	３	前期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

高齢者や介護を受けている方を対象にした心のケアのひとつとしてメイクセラピーの講義と実習をします。

授業の目的・到達目標

メイクセラピーに必要な皮膚の科学、高齢者の心理・コミュニケーション、認知症を理解します。
実際に人の皮膚や手に触れ、心のケアに役立つ技術を身につけます。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	講義の目的、進め方	講義の概要を説明。自分を分析する	
２	高齢者の心理	高齢者の心理・認知症高齢者の特徴と症状	プリント配布
３	ハンドケア	ハンドマッサージとマニュキュアの体験	実習
４	皮膚の科学と手入れ	皮膚の仕組みを科学的に理解する	プリント配布
５	メイクセラピーとは	美容による心理的・身体的効果について	プリント配布
６	メイクの実際	メイクセラピーの心構えとコミュニケーション	プリント配布
７	メイク実習	自分にメイク	実習
８	メイク実習	人にメイク	実習
９	園芸セラピー（別途シラバス参照）		
１０			
１１			
１２			
１３			
１４			
１５	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

出席率を重視します。特に実習は欠席しないようにしてください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り　　字数、課題テーマは初回講義時に発表します。 □無し	３０　％
試　　験		％
その他（出席状況等）		７０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　　内線

作成年度：２００９

授業科目コード	４７－８ ②	授業科目名	セラピーの実際 (園芸セラピー)	担当教員名	山中　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

身近な草花や自然とのふれあいを心と体の健康に役立てる作業療法のひとつである園芸療法。植物を媒介とした人と人のふれあいや社会参加、生きがいづくりなど、広い意味での心身の癒しにつなげる園芸福祉。これらにボランティア等による地域社会での園芸活動を加えたものを、大きく園芸セラピーととらえ、その理論と実践について事例紹介を交えて講義する。

授業の目的・到達目標

五感を通して心身に総合的に働きかける園芸セラピーの基礎的な知識を身につける。医療・福祉・教育・地域社会等、実際に現場で行われている事例について知り、園芸を取り入れる効用について考察する。実習では、園芸プログラムを通して、植物とのふれあいを体感しながら、その実践上のポイントを学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	園芸セラピー概論	園芸セラピーの意義・歴史	
2	事例紹介	園芸セラピーの実践例	
3	実習①	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム①	
4	実習②	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム②	
5	実習③	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム③	
6	実習④	植物の特性とセラピーへの応用 園芸プログラム④	
7	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

園芸の特性上、気候等によって授業スケジュールを変更する場合があるので留意すること。実習時は動きやすく汚れても構わない服装で受講すること。植物の栽培・観察をレポート課題の１つとする予定であること、実習材料を自宅に持ち帰る可能性があることをあらかじめ了解の上で受講すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　授業終了時に毎回小テストを行う □無し	３５　%
レポート	☑有り　実習から一定の期日内にレポートの提出を義務づける □無し	３０　%
試　　験	特に実施しない	%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度について総合的に評価する	３５　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕特になし　適宜資料を配布する

〔参考書・その他〕講義中に示す

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４７－９	授業科目名	カウンセリング論Ⅰ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	２	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

カウンセリングとはどのようなものなのか。その内容と実際について、その一部を体験することを目的とする。

授業の目的・到達目標

カウンセリングに必要な理論背景などに触れつつ、どのようなアプローチによってクライエントに接近可能なのかについて様々な角度から理解することを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	オリエンテーション	
２	実習	ブラインドウォーク	
３	実習	コラージュ療法①	
４	実習	コラージュ療法②	
５	実習	粘土①	
６	実習	粘土②	
７	実習	フィンガーペインティング①	
８	実習	フィンガーペインティング②	
９	実習	描画法①	
１０	実習	描画法②	
１１	実習	描画法③	
１２	実習	ロールプレイ	
１３	実習	ロールプレイ	
１４	実習	ロールプレイ	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。履修者の人数状況や進行状況により授業内容を適宜変更する場合もあるので留意されたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	％
レポート	□有り □無し	60　％
試　　験		％
その他（出席状況等）	出席と授業態度	40　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
特になし
〔参考書・その他〕
特になし

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2011

授業科目コード	４７－１０	授業科目名	カウンセリング論Ⅱ	担当教員名	向出　佳司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 人間と心理	選択科目	３	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

カウンセリングとはどのようなものなのか。その内容と実際について、その一部を体験することを目的とする。

授業の目的・到達目標

カウンセリングに必要な理論背景などに触れつつ、どのようなアプローチによってクライエントに接近可能なのかについて様々な角度から理解することを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	オリエンテーション	
２	カウンセリングとは	カウンセリングの実際とその内容	
３	カウンセリングとは	インテーク面接	
４	カウンセリングとは	治療構造枠について	
５	心理療法①	精神分析療法	
６	心理療法②	行動療法	
７	心理療法③	来談者中心療法	
８	心理療法④	芸術療法（コラージュ療法）を実施	
９	心理療法⑤	体験のシェアリングとフィードバック	
１０	心理療法⑥	描画法（スクイグル法）を実施	
１１	心理療法⑦	体験のシェアリングとフィードバック	
１２	カウンセリング①	ロールプレイを行う	
１３	カウンセリング②	ロールプレイを行う	
１４	カウンセリング③	ロールプレイを行う	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

時間厳守。遅刻は受け付けないことがあるので注意すること。さらに、遅刻・欠席で実習を体験されていないと、レポートも書けず大幅減点となるので留意すること。履修者の人数状況や進行状況により授業内容を適宜変更する場合もあるので承知されたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　各授業の後に簡単な感想レポートを書いてもらう。 □無し	30　％
レポート	■有り □無し	50　％
試　　験		％
その他（出席状況等）	出席と授業態度を重視する	20　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

特になし。必要なときに配布する。

〔参考書・その他〕

適宜授業の中でお知らせする。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　　内線

作成年度：2011

授業科目コード	４７－１２	授業科目名	カウンセリング演習Ⅰ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
カウンセリング実務士資格	必修科目	３	前期	２	時間割参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻

授業のテーマ・概要カウンセリングは時間性の混同や自分に問題解決できるものと他者に問題解決を求めるものとの整理でもある。人間本来の生き方ができるように、また、問題解決力をつけソーシャルスキルを身につけるよう支援していくことでもある。

授業の目的・到達目標
カウンセリング場面で多くの人と交流体験のなかで自分の感情を客観的に把握できるスキルを身につけていくことを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義の内容と進め方	プリント
2	発達課題と阻害事例事例研究	ライフコース（幼児期・児童期・思春期）の発達課題と阻害事例研究	プリント
3	青年期の発達課題と阻害事例研究と対応	衝動的、攻撃的な人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
4	対応の難しいパーソナリティの事例研究と対応	抑うつ傾向にある人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
5	対応の難しいパーソナリティの事例研究と対応	神経症的不安傾向にある人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
6	抑うつ傾向にある人の事例研究と対応	不登校のタイプと不登校のタイプ別事例	プリント
7	神経症的不安傾向にある人の事例研究と対応	不登校のタイプ別事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
8	心身症保持者の事例研究と対応	引きこもりタイプとタイプ別事例	プリント
9	不登校児の事例研究と対応	引きこもりタイプ面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
１０	引きこもりの事例研究と対応	行動症状を持つ人への事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
１１	行動症状を持つ人への事例研究と対応	拒食症や過食症の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
１２	摂食障害の事例研究と対応	親子関係が引きがねとなる問題を持つ人の事例と面接場面での情報収集方法と対応の基本	プリント
１３	障害者の心の問題の事例研究と対応	障害別タイプと事例	プリント
１４	障害児・者を持つ家族に起こる問題	障害別タイプと事例	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等
私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	10　％
レポート	□有り □無し	10　％
試　　験		50　％
その他（出席状況等）	出席重視	30　％

教科書・参考書及び辞典等〔テキスト〕
〔参考書・その他〕國分康孝「現代カウンセリング辞典」金子書房、２００１
ヘルスカウンセリング学会　「ヘルスカウンセリング辞典」日総研　２００４

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１１

授業科目コード	４７－１３	授業科目名	カウンセリング演習Ⅱ	担当教員名	向出　佳司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
カウンセリング実務士資格	必修科目	3	後期	2	時間割参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻

授業のテーマ・概要

人生や進路に迷ったり、人間関係や恋愛などで悩んだりした時、自分本来の欲求や感情そのままに生きることを阻むため生じる感情である。カウンセリングはこのような矛盾する感情を少なくし、本来の自分の感情や欲求に添うよう支援し、より良い人間関係を構築し、人格成長を促すことができるように援助する。

授業の目的・到達目標

各人の「人格成長」を促すことができようにカウンセリングの基本的姿勢とソーシャルスキルを身につけることを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	問題別事例と併用療法（行動療法、遊戯療法、芸術療法、グループカウンセリング）	プリント
2	基本姿勢１	言語の観察法、非言語的観察法と内部的観察法	プリント
3	基本姿勢２	傾聴とブロッキング、確認	プリント
4	基本姿勢３	共感的関わりと二重意思論	プリント
5	心理パターン論	心傷の構図、世代間伝達	プリント
6	発達課題と阻害因	ライフステージにおける発達課題と阻害因	プリント
7	ストレス源と防衛機制	ストレスに対する反応	プリント
8	精神分析療法	さまざまな治療モデル	プリント
9	夢分析	「今、ここで」のドリームワーク	プリント
１０	クライエント中心療法	カウンセリングの基本とは	プリント
１１	交流分析	交流パターンの分析	プリント
１２	イメージ療法	イメージ療法の理論	プリント
１３	認知行動療法	認知行動療法のアプローチ	プリント
１４	サイコドラマ	サイコドラマとオムニバスサイコドラマ	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験		100　%
その他（出席状況等）	出席重視	%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕國分康孝「現代カウンセリング辞典」金子書房、２００１
ヘルスカウンセリング学会　「ヘルスカウンセリング辞典」日総研　２００４

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１１

授業科目コード	４７－１４	授業科目名	カウンセリング実習	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
カウンセリング実務士資格	必修科目	4	前期	2	時間割参照	生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻

授業のテーマ・概要

実際に多くの事例を中心にカウンセリングを体験し､いろいろな問題を持つ人達へのカウンセリングの経験を積んでいきながらカウンセリングを必要とする人達へのスキルはどうあるべきかを学んでいく。

授業の目的・到達目標

どのような問題を提示されても対応できるカウンセリングスキルを身につけていくことを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	自己カウンセリング	チェックリスト作成	プリント
2	自己カウンセリング	チェックリスト作成	プリント
3	ロールプレイ	他者チェックリスト作成	プリント
4	シート作成とカウンセリング	ストレスマネージメントのシート作成と応用	プリント
5	シート作成とカウンセリング	自己イメージ連想のシート作成と応用	プリント
6	シート作成とカウンセリング	生活変容のためのシート作成と応用	プリント
7	シート作成とカウンセリング	色彩イメージによるシート作成と応用	プリント
8	シート作成とカウンセリング	自己成長のためのシート作成と応用	プリント
9	心の問題を持つ人	ロールプレイ	プリント
１０	虐待を受けた人	ロールプレイ	プリント
１１	不登校児	ロールプレイ	プリント
１２	摂食障害１	ロールプレイ	プリント
１３	摂食障害２	ロールプレイ	プリント
１４	引きこもり	ロールプレイ	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	0　%
レポート	□有り □無し	0　%
試　　験		70　%
その他(出席状況等)	出席重視	30　%

教科書・参考書及び辞典等〔テキスト〕

〔参考書・その他〕國分康孝「現代カウンセリング辞典」金子書房、２００１

ヘルスカウンセリング学会　「ヘルスカウンセリング辞典」日総研　２００４

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１１

授業科目コード	４８－１	授業科目名	現代子育て論	担当教員名	水田聖一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	必修科目	３	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

子どもたちを産み育てるという何千年も続いてきた営みが、今危機にさらされている。虐待やネグレクトなどの様々な問題から子どもたちを守るために何が必要か、子どもたちのためにどのようにことが行われるべきかを考察する。幼稚園や保育所での実践等も紹介する。

授業の目的・到達目標

子どもの「学びの特徴」を理解しながら、「発達段階に即した」援助のあり方を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	序論	子どもを育てるとは	テキストに準じる
2	保育内容	保育内容の基本構造	〃
3		保育内容の変遷	〃
4		保育内容の「統合性」	〃
5		保育内容の構成	〃
6		子育ての伝承から学ぶ	〃
7	保育方法	保育の展開と保育方法	〃
8		保育の展開と保育者	〃
9		遊びの展開過程に関わる保育者の役割	〃
１０		保育内容と計画	〃
１１	発達	子どもの発達と生活	〃
１２		子どもの育ちと保育内容	〃
１３		現代の子育ての現状	〃
１４		これからの子育ての課題	〃
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読み、授業に臨むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　毎回ミニレポートを書いてもらう。 □無し	30　%
試　　験	講義内容を論述式で述べるもの。	60　%
その他（出席状況等）		10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

生田貞子・水田聖一編『保育実践を支える保育内容総論』福村出版、2205 円

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４８－２	授業科目名	高齢社会論	担当教員名	大坪　勇

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	３	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

世界一の高齢社会に突入したわが国の社会システムについて現状を把握するともに検証を加え、あるべき高齢社会のありようを検討する。

授業の目的・到達目標

高齢社会とは何か、また、高齢社会におけるケアシステムについての現状理解と課題を理解し、高齢社会の介護システム等を構築する基礎力を付ける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	講義の内容、授業の進め方を説明	
２	高齢社会とは何か	高齢化の状況	プリント配布
３	高齢社会とは何か	高齢者の状況	
４	介護ライフスタイル①	高齢者ケアとは	プリント配布
５	介護ライフスタイル②	介護の社会史１	
６	介護ライフスタイル③	介護の社会史２	
７	介護ライフスタイル④	介護ライフスタイルという視点	プリント配布
８	介護ライフスタイル⑤	介護者の動機と介護ライフスタイル	
９	介護ライフスタイル⑥	介護の長期化と介護ライフスタイル	
１０	介護ライフスタイル⑦	配偶者間介護と家族ダイナミクス	プリント配布
１１	介護ライフスタイル⑧	介護ライフスタイルとジェンダー	
１２	介護ライフスタイル⑨	介護ライフスタイルと親族ネットワーク	プリント配布
１３	介護ライフスタイル⑩	介護ライフスタイルの課題と展望	
１４	介護ライフスタイ⑪	介護ライフスタイルの課題と展望	
１５	全体の理解度の確認と授業総括	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

学生諸氏にあっては講義内容を鵜呑みにすることなく、常に批判的視点を持ち講義に臨まれたい。
また、主体的に講義に参加できる場面を設けるので積極的に論議に参画願いたい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	％
レポート	□有り □無し	％
試　　験	定期試験を実施する	８０　％
その他（出席状況等）		２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕資料を配布する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２０１２

授業科目コード	４８－３	授業科目名	ターミナルケア論	担当教員名	大河内 大博

科 目 区 分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目	選択科目	３・４	後期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

私たちの人生には必ず「死」が待っています。「死」について語ること、考えることは、普段の生活ではあまりないことですが、必ず訪れるものへの思慮なくして、今の時間を大切には出来ません。
本授業では、死について、ターミナルケア領域の医療、ケア、社会資源、文化への理解を深め、対人援助の基本を学び、私たち個人個人の死生観を育む授業をしていきます。

授業の目的・到達目標

本授業の講義、ワークショップを通して、死を想うことを忌み嫌ったり、消極的に捉えるのではなく、死を想うことが、今ある“いのち”の大切さを知り、“いのち”の輝きに気づくことになることを体験的に学習し、有限な私たちの“いのち”を大切にできる死生観を育むことを目指します。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	はじめに	本講義の進め方・約束事の確認	
２	「死」とは何か	人間の死の理解	
３	ワークショップ①	「死」の疑似体験	
４	ターミナルケア概論①	ターミナルケアの歴史	
５	ターミナルケア概論②	ホスピス運動、ビハーラ運動	
６	ターミナルケア各論①	ターミナルケア医学と社会資源	
７	ターミナルケア各論②	ターミナルケアの心のケアースピリチュアルケアー	
８	ターミナルケア各論③	在宅死	ビデオ鑑賞
９	ワークショップ②	自分の死に様をデザインする	
１０	生命・医療倫理①	生命・医療倫理の原則論	
１１	生命・医療倫理②	安楽死と尊厳死	
１２	ワークショップ③	大切な人との別れ	
１３	グリーフケア１	グリーフケアとは	
１４	グリーフケア２	グリーフケアの取り組み	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・私語、居眠り、授業外の作業等、講義の妨げとなるものはすべて厳禁
・毎回の感想シートを必ず記入すること
・自主的な学びに取り組むこと

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	％
レポート	■有り　　ブックレポート（１回)。授業初回でアナウンスします。 □無し	20　％
試　験	知識問題と論述問題の筆記試験	70　％
その他（出席状況等）	出席率も成績に加味します	10　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　なし
〔参考書・その他〕　授業内で適宜お勧めします。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４８－４	授業科目名	生活と社会保障	担当教員名	楳原（うめはら）　直美（なおみ）

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	３	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

社会保障は我々の生存権を保障する重要な役割を担っている。その果たす役割や仕組みを理解し社会保障のシステムの問題点や課題について考察する。

授業の目的・到達目標

社会保障のシステムは何らかの生活上の問題が発生しなければ見えにくいが、我々の生活に重要な役割を果たしている。私たちとシステムの関係を理解し、身近なものであることに気づくこと、そして社会保障や社会福祉の今後の課題を学生自身が考えていけるものとしたい。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	講義の概要、進め方などを説明。	
２	社会保障制度とは	何のために社会保障制度はあるのか？	Ｐ３６～Ｐ４１
３	社会保障制度の歴史	諸外国の社会保障制度の歴史的発展	Ｐ２～１４
４	社会保障制度の歴史	我が国の社会保障制度の歴史的発展①	
５	社会保障制度の歴史	我が国の社会保障制度の歴史的発展②	
６	社会保障と社会保険	我が国の社会保障制度の体系、位置づけ。	Ｐ５４～Ｐ８８
７	医療保険制度	医療保険制度のしくみ	Ｐ１４２～Ｐ１８７
８	年金保険制度	年金保険制度のしくみ	Ｐ１０２～Ｐ１４１
９	雇用保険制度	雇用保険制度のしくみ	Ｐ２４０～Ｐ２７３
１０	労災保険制度	労災保険制度のしくみ	Ｐ２１４～Ｐ２３９
１１	介護保険制度	介護保健制度のしくみ	Ｐ１８８～Ｐ２１３
１２	関連法規	主にこれから社会で働く学生さんのための法律	
１３	社会福祉基礎構造改革	少子高齢社会と今後の社会保障制度の課題	Ｐ４２～５３
１４	まとめ	まとめ	
１５	試験実施と解説		

履修上の注意・関連科目等

身近な事例をあげ、わかりやすい授業にしていこうと思います。
積極的な参加を望みます。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	□有り ☑無し	％
試　　験	くわしいことはまとめの時に伝えます。	７０　％
その他（出席状況等）	出席点　授業態度	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕社会福祉士養成講座５　社会保障論　中央法規

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２００８

授業科目コード	４８－５	授業科目名	地域福祉論	担当教員名	後藤 登美子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	３	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

地域ではさまざまな生活・福祉問題が起きている。そうしたなかで、地域住民を含めたさまざまな地域福祉活動が行われている。本講義では地域福祉活動の実践を紹介しながら、地域福祉の基本的な事柄について講義する。

授業の目的・到達目標

地域福祉の思想を理解する。また、地域福祉活動の実践から地域福祉が求められる社会的背景を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
１	講義オリエンテーション		
２	福祉の思想	ノーマライゼーション、インクルージョン	
３	地域福祉理念と目的①		
４	地域福祉理念と目的②		
５	地域福祉とｺﾐｭﾆﾃｨについて①		
６	地域福祉とｺﾐｭﾆﾃｨについて②		
７	地域福祉の担い手について①	社会福祉施設、社会福祉協議会	
８	地域福祉の担い手について②	NPO 法人、民生委員、等々・・・	
９	地域福祉活動の実践①	ボランティア活動について①	
１０	地域福祉活動の実践②	ボランティア活動について②	
１１	地域福祉活動の実践③	住民型参加福祉組織について	
１２	地域福祉計画と目標	共同募金、ボランティア基金について	
１３	地域福祉の課題について①		
１４	地域福祉の課題について②		
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

出席状況・授業態度を重視する。
日頃から新聞記事に目を通し、日常生活の中の具体例と関連づけて学習を深めること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り　　課題レポートの提出を求める。 □無し	１０　％
試　　験		３０　％
その他（出席状況等）	出席状況、平常点	６０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
使用しないのでレジメを配付する。
〔参考書・その他〕
適宜紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２０１０

授業科目コード	４８－６	授業科目名	ボランティア論	担当教員名	J.A.T.D. にしゃんた

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
基礎力養成科目 学外研修分野	選択科目	1～3	後期	2	時間割 参照	学部共通

授業のテーマ・概要

言葉として使われて久しいが、日本の社会や個人の中で「ボランティア」がどこまで根付いたのだろうか。本講義では、基礎的な知識から国内外の具体的な事例まで広範囲にわたり、ボランティアについて学びます。受講生が主体的に考え、自ら表現・行動できるきっかけつくりになるような講義にしていきたいと考えています。

授業の目的・到達目標

ボランティア実践のため、現場に出かけるまでに必要な知識や心構えなどを身につけます。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義の概略と進め方について	必要に応じて随時プリント配布
2	ボランティアとは	定義や学問としての歴史などについて	
3	ボランティアと自己	ボランティアは誰のためかについて考える	
4	ボランティアと日本	世界と日本のボランティア文化の比較	
5	ゲストスピーカー	上級生のボランティアワーキングの報告など	
6	ゲストスピーカー	上級生のボランティアワーキングの報告など	
7	ボランティアの事例	インド洋大津波とボランティアについて	
8	ボランティアの事例	在日外国人対象のボランティアについて	
9	現状の改善と提案	日本のボランティア活動の問題と改善に向けて	
１０	ゲストスピーカー	地域のボランティアに話を聞く	
１１	身近な活動の企画	身近で出来るボランティア活動の企画	
１２	身近な活動の実践	身近で出来るボランティア活動の実施	
１３	ワークキャンプ企画Ⅰ	ボランティアワークキャンプ企画書の作成	
１４	ワークキャンプ企画Ⅱ	ボランティアワークキャンプ企画を発表	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

授業への積極的な参加を求めます。講義中の私語、飲食、携帯電話使用など受講態度としてふさわしくない行為は禁止する。もしこのような行為を発見した場合は、それ以降の受講を認めないのでご注意ください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	■有り □無し	%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席および授業に対する姿勢	40　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

随時、プリント配布

〔参考書・その他〕

なし

オフィス・アワー　※別紙オフィス・アワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2011

授業科目コード	４８－７	授業科目名	まちづくり実践論	担当教員名	山崎　満

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	３	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

市民と行政による双方向のコミュニケーション型まちづくりを中心に、自律した市民による「参画型まちづくり」を学ぶ。

授業の目的・到達目標

まちづくりの現状と課題を学習しながらより良い地域づくりのため、行政と市民との役割を明確にし、将来個人個人がどのようにまちづくりに参画し実践していけばよいかを考える。

まちづくりの基礎知識からワークショップの修得、身近なまちづくり実践を体験しながら参画型まちづくりの作法・手法の修得を目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	授業の目的・進め方	講義の概要、進め方などを説明。	プリントを配布
２	まちづくりの概要①	まちづくりの経過と現状を講義。	プリントを配布
３	まちづくりの概要②	今後のまちづくりの方向を講義。	プリントを配布
４	参画型の基礎知識①	まちづくりにおける法体系の基礎知識を講義。	プリントを配布
５	参画型の基礎知識②	まちづくりにおける手法等の基礎知識を講義。	プリントを配布
６	参画型の基礎知識③	まちづくりにおける手法等の基礎知識を講義。	プリントを配布
７	参画型のパターン①	参画型まちづくりの類型と事例を講義。	プリントを配布
８	参画型のパターン②	参画型まちづくりの類型と事例を講義。	プリントを配布
９	参画型の進め方	参画型まちづくりの進め方を講義。	プリントを配布
１０	ワークショップ①	ワークショップの基礎知識を講義。	プリントを配布
１１	ワークショップ②	ワークショップの実習。	プリントを配布
１２	ワークショップ③	まちづくり実践のための準備ワークショップ。	プリントを配布
１３	まちづくり実践	身近なまちづくりを実践する。	プリントを配布
１４	授業の振り返り	授業の振り返り。	
１５	学期末試験とまとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

各回毎にプリントを配布するので、各自でファイル綴じのうえ授業に持参すること。

ワークショップの授業は、グループ単位で授業を行うため、積極的に授業に参加し発言すること。

尚、私語及び途中入退室は出席と認めないので厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	%
レポート	□有り □無し	%
試　　験	内容・形式等については授業のなかで説明する。	50　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加度（特にワークショップ時の発言、発表等）を重視する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕無し

〔参考書・その他〕　佐藤滋他『まちづくりデザインゲーム』　学芸出版社

高木任之『都市計画法を読みこなすコツ』　学芸出版社

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2011

授業科目コード	４８－８	授業科目名	ユニバーサルデザイン論	担当教員名	大河内 雅司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	３	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

ユニバーサルデザイン（以下、ＵＤ）とはなにか？その概念を学ぶと共に、バリア（障壁）の体験や小グループでの意見交換・発表などにより、ＵＤを自らの問題として学ぶことを支援します。

授業の目的・到達目標

ＵＤについて学ぶことを通じて、自分なりの視点や問題意識を持つことを目標とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ　全体説明	全体課題及び各回の内容について説明します。	講師作成資料
2	受講生の UD 度ﾁｪｯｸ	受講生の「ＵＤ度」をチェックします。	〃
3	キャンパス内の疑似体験	キャンパス内で疑似体験（アイマスク・車いすなど）を行い、体でバリアを感じてもらいます。感じたことをみんなで共有します。	学内の車いすを使用
4	ＵＤの理解（その１）	ＵＤの概念や事例を紹介します。	パワーポイントを使用
5	障害種別とバリアの理解	障がい者とは？バリアとは？障がい者の概要と生活課題、施設整備の基準について説明します。「まちのＵＤ探し」の課題を出します	講師作成資料
6	まちのＵＤ探し（その１）	まちのＵＤ事例を自分の視点で探し、レポートにまとめます。	自主学習
7	ＵＤの理解（その２）	ＵＤの背景として、福祉のまちづくり条例やバリアフリー新法などの法制度について説明します。	パワーポイントを使用
8	まちのＵＤ探し（その２）	まちのＵＤ探しのレポートを発表し、成果を共有します。	学生の発表
9	UD と社会福祉政策	UD を時代背景や社会福祉政策の動向から俯瞰してみます。	講師作成資料
１０	ＵＤにおける住民参加の学習（その１）	ＵＤにおける住民参加について、事例（交通バリアフリーなど）をもとに説明します。	パワーポイント、ビデオを使用
１１	ＵＤにおける住民参加の学習（その２）	ＵＤにおける住民参加について、事例（地域福祉計画など）をもとに説明します。	〃
１２	キャンパスのＵＤ(その１)	キャンパスのバリアフリーについて、事例を基に理解を進めます。	講師作成資料
１３	キャンパスのＵＤ(その２)	ＵＤの視点で羽衣大学キャンパスのバリアフリー調査を行います。	パワーポイント、ビデオを使用
１４	キャンパスのＵＤ(その３)	キャンパスのバリアフリーについて調査報告、提案を行います。	〃
１５	学期末試験実施	試験を行います。	

履修上の注意・関連科目等

「まちのＵＤ探し」は必ずレポートを提出すること。
意見交換や発表では、リーダーを中心にグループワークを行うこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り　■なし	
レポート	■有り　□なし　自分の視点でまちのＵＤを探し、レポートにまとめる。	25　%
試　　験	授業最終日に試験を実施する。	25　%
その他（出席状況等）	出席状況と講義の中での発表を評価する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔参考書・その他〕　梶本久夫編著「ユニバーサルデザインの考え方」　丸善
　川内美彦「ユニバーサルデザイン－バリアフリーへの問いかけ」「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」　学芸出版社　など

作成年度：2012

授業科目コード	４８－９	授業科目名	商品論	担当教員名	國廣 英司	
科 目 区 分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

付加価値(ブランドイメージ)向上のための企業努力について

授業の目的・到達目標

企業の商品戦略についての考え方の構築

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝについて	講義概要を説明	
2	PRODUCT(製品)	企業の商品に対する考え方についてⅠ	
3	PRODUCT(製品)	企業の商品に対する考え方についてⅡ	
4	PRODUCT(製品)	企業の商品に対する考え方についてⅢ	
5	PRODUCT(製品)	企業の商品に対する考え方についてⅣ	
6	PRICE(価格)	市場における値段設定Ⅰ	
7	PRICE(価格)	市場における値段設定Ⅱ	
8	PRICE(価格)	市場における値段設定Ⅲ	
9	PLACE(流通)	市場流通のための販路についてⅠ	
１０	PLACE(流通)	市場流通のための販路についてⅡ	
１１	PLACE(流通)	市場流通のための販路についてⅢ	
１２	PROMOTION(販促)	企業の販促活動について	
１３	BRAND(ブランド)	製品ブランド、企業ブランドについて	
１４	総括		
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

講義を基本とするが、学生の発言等を求めることもある

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	□有り ☑無し	％
試　　験	授業最終回に実施	３０　％
その他（出席状況等）	出席状況	７０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

『ルイ・ヴィトンの法則』（長沢伸也 著、東洋経済新報社）

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号 号館　　階　　　　内線	

作成年度：2012

授業科目コード	４８－１０	授業科目名	消費者論	担当教員名	岡本 朝也

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	必修科目	２	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人はなぜ物を買うのだろうか？消費者の心理や行動はどのように理解され、企業の戦略や行動にどう応用されているのだろうか。そして企業と消費者の関係に対しては、どのような法律や制度が用意されているのだろうか。ビジネスの現場でも使われる様々な理論やアイデアを知ろう。

授業の目的・到達目標

①さまざまな消費者研究の理論を知り、マーケティングやブランディングの概念や用語に習熟する。
②消費者をとりまく法律や制度の仕組みと実態を知り、学習や就職活動に役立てる。
③現代社会における消費のありかた、機能を学び、社会についての見識を持つ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス		
2	戦後の消費社会①	衣食住の充実	
3	戦後の消費社会②	大量生産と大量消費	
4	戦後の消費社会③	高度消費社会の到来	
5	戦後の消費社会④	戦後の消費社会のまとめ	
6	消費者問題①	日本の消費者問題１	
7	消費者問題②	日本の消費者問題２	
8	消費者問題③	消費者問題と消費者行政１	
9	消費者問題④	消費者問題と消費者行政２	
１０	消費者問題まとめ	消費者行動の社会学的アプローチ	
１１	マーケティング①	マーケティングの基本理論	
１２	マーケティング②	現代のマーケティング１	
１３	マーケティング③	現代のマーケティング２	
１４	消費社会の理解①	消費社会の構造	
１５	消費社会の理解②	消費社会と現代社会	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　学期末に 800 字程度のレポートを課する □無し	50　%
試　　験	実施しない	%
その他（出席状況等）	出席状況を勘案する	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕
松江宏編『現代消費者行動論』創成社（2200 円）

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４８－１１	授業科目名	流行と消費者行動	担当教員名	平岡 隆一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 社会と生活	選択科目	１	後期	２	時間割 参照	生活マネジメントコース

授業のテーマ・概要

流行すなわち「商品のサイクル」を理解し、世界の動き・経済環境・商品の動向・消費者の動きなどの市場動向を調査・分析する。

授業の目的・到達目標

①流行のサイクルを理解し判断することが出来るようになれる
②消費者の価値観の動向・変化を理解できる
③１人の消費者として「商品」を見極める目を養うことが出来るようになれる

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	授業の進め方・目的について	講義の内容・進め方などの説明	
２	商品のライフサイクルとマーケットイン	ファッションサイクルについて	資料配布
３		スパイラル状に変化するサイクルについて	
４		マーケットインの対応について	
５	進化するファッション意識	マズローの欲求５段階説について	資料配布
６		消費とビジネスの変遷	
７		１０人１色から１人１色、１人１０色へ	
８		２０世紀後半の生活文化史について	
９	今日のマーケティング戦略	マーケティングとは	資料配布
１０		ターゲット設定とコンセプトについて	
１１		マーケティングの３Ｃ・４Ｃとは	
１２	欠かせない市場情報の収集と分析	マーケティングリサーチについて	資料配布
１３		消費者動向調査とは	
１４		調査データの分析と活用の仕方	
１５	レポート提出		

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り □無し	７０　％
試　　験		％
その他（出席状況等）		３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　　内線

作成年度：２００７

授業科目コード	４９－１	授業科目名	健康科学 子どもの健康	担当教員名	水田聖一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	必修科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント

授業のテーマ・概要

子どもを取り巻く環境が大きく変化している現在、子どもの心身における健康の保持と増進は大きな課題となっている。健康領域を身体のありかた面からと心の働きとしてのしなやかさの面から考察する。

授業の目的・到達目標

健康を「強さ(運動量)」、「動きの多様性」、「(心と体の)しなやかさ」という三つのキーワードから理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	領域「健康」	乳幼児と健康	テキストに準じる
2		乳幼児の発達と健康	
3		自ら生き生きと動く子どもを育てる	
4		生きる力の基礎としての体を育てる	
5		健康と自立	
6		安全に生きる力を育てる	
7		領域「健康」の指導計画	
8		行事と健康	
9		健康管理	
１０		幼児と性	
１１		身体の動きとしての強さ	
１２		動きの多様性	
１３		動きのしなやかさ	
１４		心の働きとしてのしなやかさ	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキストを前もって読み、授業に臨むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　毎回ミニレポートを書いてもらう。 □無し	30　%
試　　験	講義内容を論述式で述べるもの。	60　%
その他（出席状況等）		10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

村岡眞澄・小野隆編『保育実践を支える健康』福村出版、2205 円

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４９－２	授業科目名	医学一般	担当教員名	松末　智

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	２	前期	２	時間割 参照	生活マネジメントコース

授業のテーマ・概要

医学が社会とどのような関わりを持っているかを理解するために必要な医学の基礎的事項を概説する。

授業の目的・到達目標

人体の構造（解剖）、機能（生理）を理解した上で、疾病の原因、診断、治療の概略を学ぶ事によって、健康を求める人や疾病・障害に苦しむ人への関わりが行える事を認識する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	医学概論	医学、医療、ケアについて	配付資料
２	人体の構造と機能	生体の大要と用語など	テキスト
３	解剖，生理	細胞、組織、器官	テキスト
４		呼吸器系、循環器系、血液系	テキスト
５		消化器系、泌尿器系	テキスト
６		神経系、内分泌系、生殖器系	テキスト
７		筋系、骨格系、感覚器系	テキスト
８	人と疾病	生から死、疾病原因	テキスト
９	疾病の診断	診断方法（問診、診察、検体検査など）	配付資料
１０		補助診断方法（放射線、超音波、内視鏡など）	配付資料
１１	疾病の治療	疾病に対する治療の考え方	配付資料
１２		薬物治療	配付資料
１３		手術、放射線療法その他	配付資料
１４	人と健康	健康の考え方	テキスト
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

解剖、生理の項は用語に慣れておくだけでも講義時の戸惑いが少ないと思われるために、是非予習することが進められる。講義内容はテキスト以外の事項も多いので、出来るだけ出席をするよう望まれる。尚、遅刻、途中退室は欠席とします。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ✓無し	%
レポート	✓有り □無し	25　%
試　　験	筆記試験	65　%
その他（出席状況等）	受講状況	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕土田隆他編著　『医学入門』建帛社　第 2 版、2011、2310 円
〔参考書・その他〕
㈶日本病院管理教育協会　『医療保険事務　医学一般』

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４９－３	授業科目名	介護概論	担当教員名	松田　美智子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	1	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

介護における尊厳の保持・自立支援について理解する。

授業の目的・到達目標

介護福祉を取り巻く状況・介護福祉の役割・介護福祉の機能について理解出来る。
尊厳の保持・自立支援を目指す介護実践の在り方について理解出来る。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	介護問題の背景	介護福祉の役割	
2	介護福祉の目的	自立支援とエンパワメント	
3	ICF の理解	生活支援への応用	
4	援助関係の基本	ケアマネジメントの実際	
5	身辺介護の技法①	環境整備(住環境の整備)	
6	身辺介護の技法②	食事の介護(食生活支援)	
7	身辺介護の技法③	排泄の介護(排泄用具の工夫)	
8	身辺介護の技法④	清潔の介護(清拭・整容・入浴)	
9	身辺介護の技法⑤	着脱の介護(衣生活支援)	
１０	身辺介護の技法⑥	運動・移動の介護(アクティビティケア)	
１１	身辺介護の技法⑦	運動・移動の介護(福祉機器の活用)	
１２	身辺介護の技法⑧	生きがい支援・レクリエーション	
１３	チームケア	介護とリハビリテーション	
１４	介護と医療の連携	ターミナルケア	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□㊒り □無し	15　%
レポート	□㊒り □無し	15　%
試　　験	全体の理解度の確認の際に実施	60　%
その他（出席状況等）	出席状況と授業参加態度	10　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
　松田美智子他編著：高齢者介護のコツ　クリエイツかもがわ
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

　3号館　4階　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４９－４	授業科目名	公衆衛生学	担当教員名	鶴保謙四郎

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

健康寿命を如何にして延伸するのか。そのためにはどの様な知識・行動が必要で、それを支える社会システムを理解させる。

授業の目的・到達目標

公衆衛生学は社会の組織的な活動によって疾病を予防し、精神的、肉体的健康を維持増進することを目的とした社会医学である。そこでその基礎的知識を習得し、自らの生活を見直すことを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	新聞の中の関連記事を読んでくること	
2	疫学・保健統計	疾病の分布と発生要因	テキスト第２、３章
3	疾病予防と健康	感染症・生活習慣病	テキスト第４章
4	主な疾病と予防	疾病予防方法	テキスト第５章
5	地域保健	生活圏における保健	テキスト第７章
6	母子保健	出生・母子・子育て	テキスト第８章
7	学校保健	学校における衛生保健	テキスト第９章
8	産業保健	職場環境と健康	テキスト第 10 章
9	老人保健・福祉	加齢・老化・高齢化・老人福祉	テキスト第 11 章
１０	国際保健	人種・民族・途上国と健康	テキスト第 13 章
１１	環境保健	生態系と健康の保持	テキスト第６章
１２	公害と環境､健康被害	水俣病・四日市喘息・アスベスト	テキスト第６章の一部
１３	インフルエンザ	人類とインフエンザウイルスの関わり	テキスト第５章の一部
１４	水道と衛生	水道の歴史と衛生	テキスト第６章の一部
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語及び携帯電話厳禁、途中入室・退出を慎むこと。
出席回数は、全体の 2/3(10 回)以上を基本とする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑無し	０　%
レポート	☑有り　　課題は授業中に示す。	２０　%
試　　験	実施する。	４０　%
その他（出席状況等）	出席回数、受講態度を評価する。	４０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
　シンプル衛生公衆衛生学 2012、辻・小山編集、南江堂、2400 円＋税
〔参考書・その他〕
　厚生労働省、環境省等の HP

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４９－５	授業科目名	ライフスタイルと健康	担当教員名	西口初江

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	必修科目	３	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

人間の生命および健康生活は急激な社会環境の変化にともない健康問題の様相も大きく変化している。人間の日常の行動や行動形式（ライフスタイル）が健康レベルに影響を与えることが明らかになっている。個人の健康を身体的・精神的・社会的な調和を考慮した健康保持・健康づくりについて講義する。

授業の目的・到達目標

人間の一生（ライフサイクル）から発育・発達と健康に関する知識や現代社会の生活環境，社会問題等について理解し、生涯にわたり健康を保持・増進（健康づくり）することを理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	健康について	健康の定義	
２		ライフサイクルにおける健康上の課題	
３		各発達段階、発達課題	
４	〃	生活習慣病	
５	〃	健康的な食生活	
６	〃	わが国の食生活の現状　食行動の変化	
７	〃	日常生活活動、運動習慣、適正体重	
８		睡眠について、睡眠障害	
９	こころの健康	ストレス、心身症、こころの不調	
１０	ライフステージと健康	家族計画、妊娠の成立、避妊法、基礎体温法	
１１	〃	思春期・青年期、壮年期、高齢期	
１２	〃	高齢者を取り巻く社会、保健、医療、福祉	
１３	環境と健康	感染症、感染症法、結核、性感染症、	
１４	〃	食中毒、地球環境問題、ノーマライゼーション	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

出席重視、予習、復習をおこなう。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	％
レポート	■有り □無し	２５　％
試　　験	筆記試験	６０　％
その他（出席状況等）	出席状況や授業態度を総合的に評価。講義中での途中退室、入室は慎む。	１５　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

成　和子編　改訂『ライフスキルのための健康科学』第２版　建帛社

〔参考書・その他〕国民衛生の動向、公衆衛生マニュアル

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

２号館　　３階　　　　　内線　３１２

作成年度：2012

授業科目コード	４９－６	授業科目名	スポーツと健康	担当教員名	岡崎 和伸

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	1	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

加齢に伴う身体の変化に対応して、生涯にわたって健康を維持増進するためにはどんな運動をどれくらい実施すれば良いのか、また、ヘルスプロモーションの基本的な考え方、健康運動機器の適切な使用方法、スポーツ活動における安全管理などを中心に講義をする。

授業の目的・到達目標

加齢に伴って自身の身体に起こる変化を通して、健康の維持増進のための運動の重要性を理解する。また、生涯にわたって健康的な生活・運動習慣を構築する基礎を習得し、健康運動プログラムを作成できること。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	健康とは？	
2	加齢と身体の変化①	加齢に伴う身体機能の変化①	プリント配布等
3	加齢と身体の変化②	加齢に伴う身体機能の変化②	〃
4	加齢と身体の変化③	加齢に伴う体力の変化	〃
5	体力トレーニング①	全身持久力トレーニング	〃
6	体力トレーニング②	筋力トレーニング	〃
7	健康のための運動①	幼少期におけるスポーツ・運動トレーニング	〃
8	健康のための運動②	青壮年期におけるスポーツ・運動トレーニング	〃
9	健康のための運動③	中年期におけるスポーツ・運動トレーニング	〃
１０	健康のための運動④	高年期におけるスポーツ・運動トレーニング	〃
１１	健康のための運動⑤	健康運動プログラムの作成と注意事項①	〃
１２	健康のための運動⑥	健康運動プログラムの作成と注意事項②	〃
１３	健康のための運動⑦	健康運動プログラムの作成と注意事項③	〃
１４	安全管理	スポーツ活動における安全管理	〃
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語および途中入退出を慎むこと。場合によっては出席と認めない。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	20 ％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験		50 ％
その他（出席状況等）		30 ％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

健康運動の支援と実践、田中喜代次・大藏倫博、金芳堂、2520 円、2006 年、ISBN4-7653-1257-7

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４９－７	授業科目名	栄養と健康	担当教員名	野口　聡子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	２	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

食事は，健康に毎日を過ごすうえで，大切な要因である．本講義では，食品に含まれる栄養素の機能や，消化・吸収について学び，さらに各ライフステージの栄養学的特徴を講義する．

授業の目的・到達目標

身体の構造と機能，食品に含まれる各栄養素がどのように体内で処理され，どのような働きがあるかを理解し，健康の維持・増進，疾病を予防するにはどのような食べ物をどのように摂取することが望ましいかを学ぶ.

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	授業について	
２	食品に含まれる栄養素	たんぱく質	テキスト，プリント
３	食品に含まれる栄養素	脂質	テキスト，プリント
４	食品に含まれる栄養素	炭水化物	テキスト，プリント
５	食品に含まれる栄養素	ビタミン，無機質	テキスト，プリント
６	食品に含まれる栄養素	水分，機能性成分	テキスト，プリント
７	食事と栄養	栄養素の消化吸収	テキスト，プリント
８	ライフステージと栄養	胎児期・妊娠授乳期の栄養	テキスト，プリント
９	ライフステージと栄養	成長期の栄養	テキスト，プリント
１０	ライフステージと栄養	成人期，高齢期の栄養	テキスト，プリント
１１	健康と栄養	ダイエットについて	テキスト，プリント
１２	健康と栄養	スポーツと栄養について	テキスト，プリント
１３	健康と栄養	生活習慣病について①	テキスト，プリント
１４	健康と栄養	生活習慣病について②	テキスト，プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	20　%
試　　験		60　%
その他（出席状況等）	出席、授業態度	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

香川靖雄著　『やさしい栄養学　第２版』女子栄養大学出版部

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	４９－８	授業科目名	応用クッキング	担当教員名	髙谷 小夜子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	２	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

生活習慣病予防の観点からも見直されている日本型食生活の基盤となる和食を中心とした実習を行います。

授業の目的・到達目標

季節の食材を使用しての献立や行事食について実習し、食卓の演出や食器の選び方、食事のマナーを身につけ、実践できるように学びます。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	班分け　　実習説明等	
２	強力粉の調理	ピザ、サラダ、ゼラチンゼリー	
３	もち米の調理	赤飯、魚の蒸し料理、吸い物、膾	
４	肉の調理	ポークピカタ、南瓜のスープ	
５	中国料理	乾焼蝦仁、麻婆豆腐、涼拌三絲	
６	秋の献立	いもご飯、きのこ料理、栗饅頭	
７	寿司二種	巻き寿司、いなり寿司、吸い物	
８	中国風おこわ	炊き込みおこわ、中華まん、スープ	
９	簡単なコース料理	オードブル、スープ、肉料理、デザート	
１０	正月料理１	黒豆、たたき牛蒡、ごまめ他	
１１	正月料理２	雑煮、昆布巻き、栗きんとん他	
１２	行事食(七草､小正月)	七草粥、あずき粥、卵豆腐	
１３	香辛料	鶏肉のペッパー焼き、簡単ピクルス	
１４	ひな祭りの献立	蛤の潮汁、菜の花辛し和え、桜餅	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

決められた実習の服装で臨むこと
遅刻厳禁
2 講時の連続した授業です。（途中休憩はなし）

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り　　実習ノートを作成し、提出 □無し	３０　％
試　　験	班単位での自主献立の調理（計画、材料購入、費用計算、調理、後片付け）	４０　％
その他（出席状況等）	出席を重視する。実習中の態度・服装なども評価の対象とする	３０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
「調理学実習」　大谷貴美子・饗庭照美編　　講談社サイエンティフィク　　2940 円
〔参考書・その他〕
「プロ仕込み　包丁テクニック図解」（株）大泉書店　　1575 円

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号
号館　　階　　　　内線

作成年度：２００７

授業科目コード	４９－９	授業科目名	ケーキ&ブレッド	担当教員名	比嘉 悠司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	3	前期	2	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要 お菓子作りの楽しさ

授業の目的・到達目標 お菓子作りを通して、素材の特性を知る

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の進め方･シュークリーム	講義の進め方などを説明･シュークリームの実習	
2	ショートケーキ/クレーム・ブリュレ	ショートケーキ/クレーム・ブリュレの実習	
3	スフレのチーズケーキ/バタークッキー	スフレチーズケーキ/バタークッキーの実習	
4	シャルロット･フレーズ	シャルロット・フレーズの実習/タルト生地仕込み（翌週分）	
5	タルト・ショコラ	タルト・ショコラ実習/パイ生地仕込み（翌週分）	
6	アップルパイ/苺のミルフィーユ	アップルパイ/苺のミルフィーユの実習	
7	クレープのデザート/絞りクッキー	クレープのデザート/絞りクッキーの実習	
8	杏仁豆腐/クグロフ	杏仁豆腐/クグロフの実習	
9	桃のババロア	桃のババロアの実習/チーズサブレの仕込み（翌週分）	
１０	カッテージチーズケーキ/グレープフルーツゼリー&マンゴムース	カッテージチーズケーキ/グレープフルーツ＆マンゴムースの実習	
１１	トリュフチョコレート/マドレーヌ	トリュフチョコレート/マドレーヌの実習/ビッシュドノエルの仕込み（翌週分）	
１２	ビッシュドノエル	ビッシュドノエルの実習	
１３	ピエス・モンテ	食材を使い、オブジェ作りのデモンストレーション	
１４	見直し	実習の反省	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意･関連科目等

積極的に授業に参加しない者の受講は認めない。私語および途中入室、途中退出は厳に慎むこと（出席とは認めない）。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り □無し	30 %
試　験		%
その他（出席状況等）	出席を重視する。	70 %

教科書･参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス･アワー ※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所･学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2011

授業科目コード	４９－１０	授業科目名	レクリエーション論	担当教員名	今西 香寿

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活と健康	選択科目	２	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

レクリエーションの理念と実践について学ぶ

授業の目的・到達目標

レクリエーションとは何か？ということを理解し、主体的にレクリエーション活動を拡げていくノウハウを身につける。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の進め方・資格取得の説明	
2	レクリエーションの意義	講義・グループワーク	
3	レクリエーション運動を支える制度	講義	
4	レク･インストラクターの役割	講義・グループワーク	
5	ライフスタイルとレクリエーション	講義・グループワーク	
6	高齢化社会の課題とレクリエーション	講義・グループワーク	
7	少子化の課題とレクリエーション	講義・グループワーク	
8	地域とレクリエーション	講義・グループワーク	
9	レクリエーション事業とは	講義・グループワーク	
１０	レクリエーション事業の展開方法	講義・グループワーク	
１１	事業計画Ⅰ　レクリエーションプログラムの計画･実施	グループワーク・実戦	
１２	レクリエーションプログラムの評価・記録	グループワーク	
１３	事業計画Ⅱ　市民を対象とした事業のつくり方	グループワーク	
１４	レクリエーション活動の安全管理	講義	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

全員参加型の授業を中心に進めます。積極的・自発的な態度で授業に臨んで下さい。
資格取得単位（レクリエーション・インストラクター）該当授業のため、全日程出席を原則とします。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑無し	％
レポート	☑有り	２０ ％
試　験	筆記テスト	７０ ％
その他（出席状況等）	出席状況・授業態度など総合評価	１０ ％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕・レクリエーション支援の基礎　　（財）日本レクリエーション協会
〔参考書・その他〕・講義関連資料コピー配布

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　階　内線

作成年度：２０１０

授業科目コード	５０－１	授業科目名	近代デザイン論	担当教員名	今井　美樹

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

20 世紀のデザインを知る／「もののかたち」の変遷

授業の目的・到達目標

身の回りのさまざまな〈もののかたち〉には、機能的な理由の他に、時代の要請や流行、美術運動との関連、技術や素材による制約などが反映されている。本講義では、19 世紀末以降、「デザイン」として発達してきた〈もののかたち〉の変遷を広く知ることにより、国や時代によって異なる「デザイン」に対する多様な捉え方を理解し、21 世紀に展開されるべき「デザイン」の可能性を考察する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	講義概要とスケジュール	◎スライドによる講義 ◎プリントを配布
2	1990 年代:デザインの現状	デジタルメディアとデザイン	
3	1950～80 年代：価値の多様化	戦後のアメリカと日本	
4		戦後のヨーロッパ	
5	1910～40 年代： デザインのモダニズム	アール・デコ	
6		大戦間のモダニズム（１）	
7		大戦間のモダニズム（２）	
8	1860～1900 年代： デザインの誕生	アール・ヌーヴォー	
9		アーツ＆クラフツ運動	
１０		デザインの工業化・量産化	
１１	通　史	（１）日本のデザイン	
１２		（２）椅子のデザイン	
１３		（３）ポスターのデザイン	
１４		（３）子供とデザイン	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

20 世紀の大まかな世界史・日本史を把握しておくこと。
私語や途中入退室を禁止する。講義開始後 20 分以上の遅刻は欠席とする。
講義中の注意を守らない者には退出を命じる。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　出席票に代わる小レポートを毎回実施する □無し	40　%
試　　験	最終授業時に実施する（試験時間 50 分）	40　%
その他（出席状況等）	出席状況(小レポート)と自主的な授業態度を評価する	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
使用しないが『世界デザイン史』(美術出版社)をもとに講義をおこなう
〔参考書・その他〕
講義中に適宜、参考となる書籍、番組、展覧会などを紹介する

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	５０－２	授業科目名	生活造形論	担当教員名	横田 哲(ﾖｺﾀ ｻﾄｼ)

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	必修科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

生活の中で衣と食と住を中心に室内環境、生活道具、生活スタイルをデザイン様式などの時間軸や、日本と西洋などの風土、文化軸から考察し 21 世紀の生活造形のあり方を考える。

授業の目的・到達目標

生活空間,生活道具は文明の発展とともに進化し,また風土や民族性によってさまざまな文化様式が生まれ多様な生活環境がつくられてきた。しかしながら現代は工業化,情報化,国際化を背景に無国籍化が進んでいる。本講は主体的な生活者の立場から,これまでの生活空間、生活ツールの流れを知った上で、21 世紀の世界的課題である環境問題とわが国の高齢化の進展への対応を考えた上で、あふれる生活ツール、情報群を適格に考察し,生活環境における問題解決を実践するための基礎的な知識を学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	生活造形とは何か	生活者、生活空間、生活ツールの意味と時代背景	プリント、パワーポイント（以下同じ）
2	環境と生活造形１	エクステリアにみる造形要素	
3	環境と生活造形２	インテリアにみる造形要素	
4	住まいと生活造形１	住生活で変わっていくもの変わらないもの	
5	住まいと生活造形２	家具と住戸の収納計画	
6	家事と生活造形	洗濯掃除・手入れ・修理に求められる空間と機器・ツール	
7	身だしなみと生活造形	身だしなみに必要な空間と機器・ツールの変遷とかたち	
8	「食する」と生活造形１	調理する空間と食べる空間	
9	「食する」と生活造形２	調理する道具と食べる道具	
１０	「学ぶ」と生活造形	学ぶ行動に求められる空間と機器・ツール	
１１	「移動」と生活造形	交通手段の変遷と造形	
１２	「通信」と生活造形	通信手段の変遷と機器	
１３	「ｴｺﾛｼﾞｰ」と生活造形	ｴｺﾛｼﾞｰの意味、ｴｺﾛｼﾞｰの観点で注目されるもの	
１４	ユニバーサルデザイン	概念の成立過程とその必要性	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

受講態度、質問力を評価する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	プリント及びパワーポイントで学んだ事柄や考え方の理解度の確認	50　%
その他（出席状況等）	授業態度及び出席状況	50　%

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2010

授業科目コード	５０－３	授業科目名	生活造形実習Ⅰ	担当教員名	清水　尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	2	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

インテリアやファッションばかりではなく、プロダクトデザイン分野においても多く用いられているファブリックを軸として、色や形で製品のイメージアップを図る能力を培う。

授業の目的・到達目標

①造形的に優れた表現力を身につけるために、代表的な表現方法を習得する。
②創意工夫を凝らし、デザインソースを探究する姿勢を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	カラーイメージⅠ	モザイク模様の制作指導	
3	カラーイメージⅡ	データファイルの作成指導	配色カード
4	パーソナルカラー	好きな色と似合う色について調査	
5	ペーパーデザイン	コンポジションとパターン抽出の指導	
6	捺染（プリント）Ⅰ	デザインの指導	
7	捺染（プリント）Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
8	捺染（プリント）Ⅲ	彩色の指導	
9	浸染Ⅰ	デザインの指導	
１０	浸染Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
１１	浸染Ⅲ	彩色の指導	
１２	応用染色Ⅰ	デザイン指導	
１３	応用染色Ⅱ	染色の準備と彩色の指導	
１４	応用染色Ⅲ	彩色の指導	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に私物は置かないこと。
②道具・資料・作品などは丁寧に取り扱い、必ず後片付けをすること。
③授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	提出期限までに提出された項目ごとの完成作品を評価する。	50　%
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を考慮する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考書・その他〕必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

3 号館 3 階　　443 内線

作成年度：2012

授業科目コード	５０－４	授業科目名	生活造形実習Ⅱ	担当教員名	清水　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	３	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

ファッションやインテリア製品のフレキシブルな素材の代表として重宝に用いられている織物の構成を理解し、糸の段階から布の色や柄（模様）をデザインし、各自のイメージに応じた実用品を製作する。

授業の目的・到達目標

視覚および触覚的に素材の質感を知ることでイメージを膨らませ、デザインと製作の試行錯誤を繰り返しながら創意工夫を凝らし、造形的能力を高める

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要・織物の組織	授業の進め方・留意点などの説明、織物の組織と織機の関係	
2	機（はた）の原理Ⅰ	整経（せいけい）、綜絖（そうこう）通しについて説明	
3	機（はた）の原理Ⅱ	筬（おさ）通し、経糸（たていと）巻きについて説明	
4	機（はた）の原理Ⅲ	糸染め、杼（ひ）の準備指導	
5	機（はた）の原理Ⅳ	製織の指導	
6	機（はた）の原理Ⅴ	布巻き、仕上げ、織見本の制作を指導	
7	織物の色模様Ⅰ	実用品のデザイン指導	
8	織物の色模様Ⅱ	製織準備の指導	
9	織物の色模様Ⅲ	製織準備の指導	
１０	織物の色模様Ⅳ	製織の指導	
１１	織物の色模様Ⅴ	仕上げ、完成作品の制作を指導	
１２	素材と外観Ⅰ	実用品のデザイン指導	
１３	素材と外観Ⅱ	製織準備の指導	
１４	素材と外観Ⅲ	製織の指導	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に私物は置かないこと。
②道具・資料・作品は丁寧に取り扱い、必ず後片付けを行うこと。
③授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	提出期限までに提出された項目ごとの完成作品を評価する。	50　%
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を考慮する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考書・その他〕必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

3 号館 3 階　　443 内線

作成年度：2012

授業科目コード	５０－５	授業科目名	カラーコーディネート論	担当教員名	清水　尚子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	２～４	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

　システム化された表色系と心理・生理・社会・光学などの分野と深く関わる色の見えの現象の理解を深めた上で、色彩調和のための配色や色彩構成の理論について講義する。

授業の目的・到達目標

　複数の色を目的に応じて秩序付け調和させ美しく快適な生活環境を生み出す能力を培うために、背景にある諸問題を認識しながら色彩体系や色彩調和論を理解する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	色を決める要素Ⅰ	光と照明	テキスト p.2,p.34～35,p.76~81
3	色を決める要素Ⅱ	光と物体色	テキスト p.2~4
4	色を決める要素Ⅲ	眼と色の見え方	テキスト p.4~5
5	色を決める要素Ⅳ	色の表示と測定	テキスト p.5~9
6	色を決める要素Ⅴ	色相記号とトーンの概念	テキスト p.10～19
7	色を決める要素Ⅵ	色覚理論と表色系	テキスト p.20~27
8	色の混合Ⅰ	加法混色	テキスト p.28~31
9	色の混合Ⅱ	減法混色	テキスト p.32~33
１０	色彩の心理Ⅰ	色の見え・色彩感情	テキスト p.36~42
１１	色彩の心理Ⅱ	色のイメージ・連想・象徴	テキスト p.43~47
１２	色彩調和Ⅰ	配色の基準	テキスト p.54~61,p.69
１３	色彩調和Ⅱ	配色の用語	テキスト p.48~53,p.62,p.72~73
１４	色彩調和Ⅲ	色彩調和論	テキスト p.64~68
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	テキスト p.2~81

履修上の注意・関連科目等

①テキストはフルに活用するので、必ず持参すること。
②項目ごとに、内容の要約と理解度のチェックのための練習問題を実施する。
③授業中にふさわしくない言動があった場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	授業最終日に実施する期末テストを評価する。 （テキストのみ持ち込み可能）	50　%
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を考慮する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
　大井義雄・川崎秀昭 『カラーコーディネーター入門　色彩　改訂版』 日本色研事業株式会社　2009 年発行　1,575 円
〔参考書・その他〕
　財団法人日本色彩研究所 『カラーコーディネーターのための　色彩科学入門』 日本色研事業株式会社　2000 年発行　1,890 円

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

3 号館 3 階　　443 内線

作成年度：2012

授業科目コード	５０－６	授業科目名	ドローイング	担当教員名	清水 尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	１～４	後期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

モノの美的イメージに着眼して選り分ける能力と、見出したデザインソースを図形によって他者に正しく伝える能力を培う。

授業の目的・到達目標

①対象とした様々なモノの存在感が他者にも同様に伝わるように、デッサンの基本技法を習得する。
②衣食住を中心とした様々な生活ツールの特徴となるフォルム描写、並びに質感や色調の表現力を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要・ラフスケッチ	授業の進め方・留意点などの説明、線描きと彩色	
2	デッサンⅠ	目測の説明と描画の指導	
3	デッサンⅡ	明暗法の説明と描画の指導	
4	デッサンⅢ	奥行きの説明と描画の指導	
5	デッサンⅣ	遠近法・構図の説明と描画の指導	
6	カラーシステムⅠ	三原色と混色の説明と描画の指導	
7	カラーシステムⅡ	明度と彩度の説明と描画の指導	トーンの概念図
8	カラーシステムⅢ	イメージ表現の説明と描画の指導	
9	ﾌｧｯｼｮﾝﾄﾞﾛｰｲﾝｸﾞⅠ	クロッキーの説明と描画の指導	
１０	ﾌｧｯｼｮﾝﾄﾞﾛｰｲﾝｸﾞⅡ	人体のプロポーションの説明と描画の指導	ファッション雑誌
１１	ﾌｧｯｼｮﾝﾄﾞﾛｰｲﾝｸﾞⅢ	着装のプロポーションの説明と描画の指導	ファッション雑誌
１２	カラーコーディネートⅠ	配色の説明と彩色の指導	配色ｶｰﾄﾞ・work paper
１３	カラーコーディネートⅡ	色彩分析の説明と彩色の指導	配色ｶｰﾄﾞ・work paper
１４	カラーコーディネートⅢ	アレンジメントの説明と描画や彩色の指導	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

①実習机の上に、私物および飲食物は置かないこと。
②道具・資料・作品は丁寧に取り扱い、必ず後片付けを行うこと。
③授業中にふさわしくない言動は、自ら慎むこと。
以上の注意に反した場合は、下記の受講態度の評価で減点する。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	□有り ☑無し	％
試　　験	最終期限までに提出された項目ごとの完成作品を評価する。	50　％
その他（出席状況等）	提出物の有無・出席状況・受講態度を考慮する。	50　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考書・その他〕必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

3 号館 3 階　　内線 443

作成年度：2012

授業科目コード	５０－７	授業科目名	ファブリック構成実習	担当教員名	喜多エイ子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン	選択科目	２～４	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

私たちの生活は、溢れるほどのファッションやインテリアなどの布製品に囲まれているが、本当に欲しいもの、自分の感性にあったものを見出すことは容易ではない。欲しいものが見つからなければ、調達する手立てを考える必要がある。本実習では自らが求めるイメージを実際に布で表現し組み立てる能力を養成する。

授業の目的・到達目標

種々の布に関する知識と作品組み立て技術（縫う、接ぐ、刺す、編むなど）を習得するとともに、生活に潤いと彩りを添える作品を製作する。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	実習の概要、進め方などを説明	
2	製作技術の習得①	繊維別、組織別の生地の特徴と取り扱い	
3	製作技術の習得②	布・針・糸との関係	
4	製作技術の習得③	実習用具の種類と使用法	
5	製作技術の習得④	仕立て用付属品の取り扱い	
6	製作技術の習得⑤	基礎縫い	
7	製作技術の習得⑥	装飾縫い、編みの基礎	
8	作品設計①	作品の製作計画（工程表）	
9	作品設計②	試作	
１０	作品製作①	材料の準備	
１１	作品製作②	組み立て作業	
１２	作品製作③	組み立て作業	
１３	作品製作④	組み立て作業	
１４	作品製作⑤	仕上げ作業	
１５	まとめ	完成作品と製作レポートを提出	

履修上の注意・関連科目等

欠席等による作業の遅れは、次週までに各自で調整すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　　製作レポート（完成作品と同時提出） □無し	70　%
試　　験	無し	%
その他（出席状況等）	出席状況、受講態度を重視する。	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

プリントを配布する。

〔参考書・その他〕

適宜、紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

３号館　３階　　　　　内線 442

作成年度：2012

授業科目コード	５０－８	授業科目名	住空間デザイン実習 空間デザイン実習	担当教員名	疋田 友一

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	3	前期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本実習では、快適な住空間を創造する上で、インテリアデザインが果たす意義と役割を、実習を通して解説する。また、具体的空間におけるインテリア計画の実践的学習を通して、実際にインテリアの設計に関わる際に求められる基礎的技術や知識と感性を修得させながら、個性的な課題作品を発表させる。

授業の目的・到達目標

インテリア設計を行う際に、対象となる住宅の空間条件や住生活特性を理解した上でデザインの条件を提案し、実際に住空間計画としてデザイン提案が出来るようになる。また、種々の表現技術も習得でき、誰にも解りやすいビジュアルな形でのデザインプレゼンテーションが出来るようになる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的・進め方	実習の概容、進め方などの説明	講義用資料配付
2	インテリア設計の進め方	設計プロセスと表現技術の説明	テキスト
3	設計課題の進め方	マンション改造計画の概要説明と平面図の描き方	テキスト・実習用資料配付
4	平面計画	インテリアデザインコンセプトと平面計画の作成	テキスト・実習用資料配付
5	家具デザイン	住空間における家具計画の考え方、平面図の作成	テキスト・実習用資料配付
6	（第２週：続き）	家具計画の決定、平面図の完成	テキスト・実習用資料配付
7	仕様書作成	室内仕上げ表及び家具などの材種・仕上げの決定	テキスト・実習用資料配付
8	照明デザイン	住空間における照明計画の考え方、天井伏図の作成	テキスト・実習用資料配付
9	色彩デザイン	具体的空間における色彩計画、展開図の作成	テキスト・実習用資料配付
１０	室内パース	室内パースの描き方と作成	テキスト・実習用資料配付
１１	（第２週：続き）	（提案作業の続行）	
１２	（第３週：続き）	室内パースの完成・着彩	
１３	プレゼンテーション	プレゼンテーションボードの作成	実習用資料配付
１４	設計課題の発表	各自作品のデザインプレゼンテーション発表	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括及び反省会	

履修上の注意・関連科目等

インテリアデザインは、住み手の住生活や家族生活にマッチした独創性の高い提案が求められることになる。オリジナリティに富んだ個性的デザインが提案出来るよう、優れたインテリアデザインの実例を沢山体験し、自分のデザイン感性の啓発に心がけること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　験	最終提案作品のプレゼンテーション・ボードと実習ごとに提出された全ての課題の内容をもって評価する。	80　%
その他（出席状況等）	出席状況や受講姿勢も評価の対象とする	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕『インテリア設計士テキスト＜実技編＞』加藤力他・日本インテリア設計士協会・1,200 円
テキストは授業開始時に教室で販売。その他、必要に応じて実習課題ごとに資料配付を行う。
〔参考書・その他〕『建築・インテリアの設計製図＜設計製図の基本と実例＞』三川栄吉・彰国社
『家具設計テキスト＜家具のデザインと設計＞』加藤力・日本インテリア設計士協会
その他、実例を紹介するなど、理解しやすい実習を行う。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	５０－９	授業科目名	画像演習Ⅰ	担当教員名	渡壁（わたかべ）　京子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	2	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

画像の加工や合成，あるいはイラストの作成など，フォトレタッチソフト（Photoshop Elements）の利用方法について解説する．

授業の目的・到達目標

パソコンの性能が向上し，だれもが簡単にコンピュータを使って画像を処理・生成することができるようになり，画像や映像をを作成する機会が増えている．そこで，Photoshop Elements を利用した，画像の加工やイラストの作成方法について習得する．

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	ガイダンス	授業内容・進め方についてのガイダンス	
2	画像の取り込み	写真の取り込みと整理	
3	画像の補正①	画像の修正	
4	画像の補正②	画像の変形	
5	画像の補正③	高度な画像編集	
6	画像の補正④	画像のレタッチ	
7	画像の合成①	画像の合成	
8	画像の合成②	部分的な画像の合成	
9	文字の入力	文字の入力と装飾方法	
１０	イラストの描画①	新しいイラストの作成	
１１	イラストの描画②	作成したイラストに効果をつける	
１２	年賀状の作成	写真を使った年賀状の作成	
１３	最終課題作成①	最終課題作成のための画像の収集	
１４	最終課題作成②	最終課題作成とプリント	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

演習科目であるので，遅刻・欠席をしないこと．
テキストを持参しない者，受講態度の悪い者は出席と認めない．
また，授業を妨害する者には退室を命じる．

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	演習科目であるため実施しない．	%
その他（出席状況等）	授業時の課題提出を中心に，授業態度・出席状況を加味して判断する．	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
　初回の授業で指示する
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	５０－１０	授業科目名	画像演習Ⅱ	担当教員名	渡壁（わたかべ）　京子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	３	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

イラストの作成を中心に，グラフィックソフト（Illustrator）の利用方法について解説する．

授業の目的・到達目標

実際に作品を作っていくことで，Illustrator の実際的な使い方を体得する．簡単なイラストの作成から始め，ロゴの作成やトレースなどさまざまな活用方法を学ぶ．

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	授業内容・進め方についてのガイダンス	
２	基本図形のイラスト	基本図形と変形	プリント
３	図形の組合せ	基本図形を組み合わせる	プリント
４	レイヤーの基本	レイヤーやオブジェクトの重なり	プリント
５	線の描画	鉛筆ツール・ブラシツール・ペンツールの使い方	プリント
６	線幅の変更	線幅ツールの使い方	プリント
７	グラデーション	グラデーションメッシュの使い方	プリント
８	復習	地図の作成	プリント
９	ロゴの作成	文字ツールの使い方	プリント
１０	シンボルの配置	シンボルツールの使い方	プリント
１１	グラフのデザイン	グラフツールの使い方	プリント
１２	遠近感を出す	遠近グリッドの使い方	プリント
１３	トレース	トレーステクニックについて	プリント
１４	ブレンド	ブレンド機能の使い方	プリント
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

演習科目であるので，遅刻・欠席をしないこと．
受講態度の悪い者は出席と認めない．
また，授業を妨害する者には退室を命じる．

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	演習科目であるため実施しない．	%
その他（出席状況等）	授業時の課題提出を中心に，授業態度・出席状況を加味して判断する．	100　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	５０－１１	授業科目名	テーブルコーディネート演習	担当教員名	横井　智恵子	
科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 生活とデザイン*	選択科目	２	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

テーブルコーディネートの演習を通して日本や諸外国の食文化について学習します。
「楽しい食卓」創造のために一緒に食卓を囲むものが身につけておくべき基本的なルールや
国際的社会人として通用するプロトコールマナーを学習します。

授業の目的・到達目標

家庭の食卓の楽しさから基本的食教育のあり方を学び、演習により色や構成なども含め多くの事を学習し覚えることで、感性豊かな応用力のある大人の総合的知識を習得することを目的とします。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目　演習タイトル	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	概　論	ワークブックの使い方・プランニングの立て方	プロジェクター
2	モーニングテーブル	洋のセッティングの基本とテーブル花の基本	ワークブック 本 写真
3	朝の食卓	和食の膳組みの手順	ワークブック 本 写真
4	端午の節句	テーブルサイズと構成　・リネンの知識	カラースケール
5	七夕の節句	カトラリーとグラスの知識・洋食器のアイテム	ワークブック 本 写真
6	トロピカルサマー	キャンドル・キャンドルスタンドの知識	ワークブック 本 写真
7	重陽の節句	和食器のアイテム・フィギュアーの知識	ワークブック 本 写真
8	ハロウィーン	西洋風のパーティーの種類・演出方法とカラー	カラースケール
9	クリスマス	西洋風テーブルマナーの常識	ワークブック 本 写真
１０	人日の節句	和風のテーブルマナーの常識	ワークブック 本 写真
１１	聖バレンタイン	演出方法とカラー	ワークブック 本 写真
１２	上巳の節句	演出方法	ワークブック 本 写真
１３	イースター	演出方法	ワークブック 本 写真
１４	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括　（筆記）	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括　（演出）	

履修上の注意・関連科目等

・欠席や遅刻をしない　・携帯電話使用禁止　・ワークブックに講義中のメモを取り演出の写真を貼る
・授業を受ける学生としてのマナーを守る　違反者は退出

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　験	14 回目に筆記試験実施 15 回目に実技試験（パーティー形式の演出）実施	35% 35%
その他（出席状況等）	ワークブックの仕上げ　　出席状況	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　山口泰子のテーブルライフ（N02￥1,700-）
ワークブック／ナプキンワーク（JFFT 協会出版¥1,500-）
〔参考書・その他〕
テーブルコーディネーターテキストブック　　テーブルマナーのエッセンス　その他

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

作成年度：2012

授業科目コード	５１－１	授業科目名	キャリアデザイン論	担当教員名	田中 雅子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	必修科目	３	前期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

本講義は２つの柱から成り立っている。１つはキャリアについて理論的に考えること、もう１つはそれをもとに自分の適性を探ることである。

授業の目的・到達目標

上述したことを通して、働くことは、人の生き方であり自己表現であると同時に、世の中の役に立ち、それで報酬を得る、価値ある社会的行為であるという「職業意識」を作りあげることにある。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	イントロダクション	なぜキャリアデザイン論を学ぶのか、講義の枠組み	PP 資料等配布
２	キャリアの現状①	日本の経済環境と就職できない若者たち	PP 資料等配布
３	キャリアの現状②	変容する、求められる人材・働き方・会社	PP 資料等配布
４	キャリアの現状③	サラリーマン一考察	PP 資料等配布
５	キャリアの現状④	進む二極化とリスク化	PP 資料等配布
６	働き方の探索①	組織で生きる	PP 資料等配布
７	働き方の探索②	会社ではなく起業を選ぶ	PP 資料等配布
８	働き方の探索③	専門を究める	PP 資料等配布
９	自分を知る①	キャリア･アンカーを探る（理論と心理テスト）	PP 資料等配布
１０	自分を知る②	キャリア・アンカーを探る（ワーク①）	PP 資料等配布
１１	自分を知る③	キャリア・アンカーを探る（ワーク②）	PP 資料等配布
１２	先輩から学ぶ①	社会人先輩から学ぶ職種研究	PP 資料等配布
１３	先輩から学ぶ②	インターンシップ、海外プログラムに参加した先輩の気づき～何が足りない、何をすべきか	PP 資料等配布
１４	先輩から学ぶ③	内定を勝ち取った先輩のヒケツ	PP 資料等配布
１５	全体の理解度の確認と授業総括	まとめ	PP 資料等配布

履修上の注意・関連科目等

自分に跳ね返る授業のはずなので、問題意識をもって積極的に取り組むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	％
レポート	■有り □無し	３０　％
試　　験	筆記試験	７０　％
その他（出席状況等）		％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

授業中に使用するパワーポイントの資料等を随時配布する。

〔参考書・その他〕

随時指示する。

作成年度：２０１１

授業科目コード	５１－３	授業科目名	ビジネス実務（秘書実務）	担当教員名	水原 道子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	３	前期	２	集中	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

社会人として働くときに求められる知識と技能の基本を中心に、実務能力が身につくよう、講義と実技を交えて行う。

授業の目的・到達目標

信頼される職業人としての基礎を養い、日常業務の流れや円滑な人間関係のあり方などを学び、さまざまな場面において適切な行動ができるようになることを目指す。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	ガイダンス	授業の概要（板書・テスト・授業態度等）	
２	企業とビジネス活動	企業とビジネス活動の現状	
３	社会人のルール	社会人のあり方・協働の精神	
４	ﾋﾞｼﾞﾈｽ業務の心構え	ビジネスルールについて	ﾋﾞﾃﾞｵ「ﾋﾞｼﾞﾈｽの達人」
５	接遇の重要性	挨拶と第一印象の重要性	
６	ことばと話し方	敬語と話し方の実際	
７	電話応対	電話の慣用語句など	ﾋﾞｼﾞﾈｽ電話検定問題
８	来客応対	来客に対する行動と言葉遣い	ﾋﾞﾃﾞｵ「接遇の基本」
９	冠婚葬祭と行事	常識としてのマナー全般	秘書検定問題
１０	ビジネス文書	業務上の文書知識と実習	秘書検定問題
１１	ファイリング①	ファイリングの基本	ﾋﾞﾃﾞｵ「ﾌｧｲﾘﾝｸﾞの基本」
１２	ファイリング②	ファイリングの自習	
１３	訪問とセールス	会社訪問とセールストーク	
１４	クレーム対応	クレーム処理の仕方	ﾋﾞﾃﾞｵ「クレーム対応」
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

・テキストを第一回目から必ず持参すること
・配布プリントの欠席者対応は、前回分のみ配布する

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	２０　％
レポート	□有り ■無し	％
試　験	最終授業時に実施 詳細は初回ガイダンスで説明	７０　％
その他（出席状況等）	出席及び受講態度を評価の対象とする	１０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
森山廣美他『ビジネスとオフィスワーク（第 6 刷）』樹村房　2010 年　1995 円（税込）
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２０１２

授業科目コード	５１－５	授業科目名	ベンチャービジネス論	担当教員名	國廣英司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	３	後期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

ベンチャー企業の経営・起業について

授業の目的・到達目標

経営者として起業するならばのポイント

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１			
２		ベンチャー企業とは	
３	ベンチャー企業とは	どのようなものかについて	
４			
５			
６			
７	起業家とベンチャー企業	起業家について	
８		過去の起業家を踏まえ解説	
９			
１０			
１１	ベンチャー･ファイナンス	ファイナンスについて	
１２			
１３			
１４	起業家の育成		
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

テキスト中心で実務内容を踏まえ授業を進める
活発な議論ができるようお願いする。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り □無し	70　％
試　　験		％
その他（出席状況等）		30　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕　ベンチャー企業経営論

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	５１－６	授業科目名	マーケティング・リサーチ	担当教員名	平岡　隆一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア･ビジネス	選択科目	１	後期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現代生活にとってファッションは欠かせないものになっています。そのファッションビジネスを通じてマーケット（市場）とはどの様なシステムになっていて、どうすれば新しいマーケットを創造できるかを解明します。

授業の目的・到達目標

今日のあらゆる分野のビジネスは行き詰まりを生じている。それを解くのは“消費者のニーズ”をいかに適確に早くキャッチするかにかかっている。従来のマーケットアウト（消費者不在）の考え方からマーケットイン（消費者ニーズ）の発想に変えるかにかかっている。そして新しいマーケットニーズを適確にどうつかむかをファッションビジネスを通じて解明します。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	講義オリエンテーション	講義の進め方に関するガイダンス。	
2	ファッションとは	ファッション産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 10P～12P
3	ファッション商品①	“流行”の常識について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 12P～13P
4	ファッション商品②	「４つの皮膚」論によるファッション産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 13P～14P
5	ファッション商品の切り口	商品グループのコンセプトについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 14P～15P
6	ファッション産業	現代生活とファッションについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 6P
7	アパレルの位置づけ	アパレルの重要性について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 6P～7P
8	ファッション産業の問題点	転換点にきた日本について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 7P～8P
9	アパレル産業	アパレル産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 16P～17P
１０	アパレル生産企業	アパレルメーカーについて講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 18P～19P
１１	ファッション流通入門	アパレル流通経路について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 20P～23P
１２	ファッション小売企業	ファッション小売産業について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 23P～25P
１３	ファッション産業の新しい動向①	垂直統業化について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 27P～30P
１４	ファッション産業の新しい動向②	新業態の登場について講義	ﾌﾟﾘﾝﾄ 30P～32P
１５	レポート試験実施		

履修上の注意・関連科目等

各回プリントの範囲を指定するので該当箇所を必ず予習すること。
寝るな、しゃべるな、遅刻するなを合言葉に授業を進めます。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り □無し	７０％
試　　験	無し	％
その他（出席状況等）	出席状況・授業態度	３０％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕
ファッションビジネス入門読本プリント

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

授業科目コード	５１－７	授業科目名	ファッションビジネス論	担当教員名	平岡　隆一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	２	前期	２	時間割参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

現代生活にとってファッションは欠かせないものになっています。
これから面白くなるファッションビジネスについて講義する。

授業の目的・到達目標

生活につながるすべてのものがファッション化し､バラエティ豊かな商品が溢れる時代を迎えている。
これが「ファッションを自己表現の手段、コミュニケーションの手段にする」人々が増えてきています。ファッションと現代生活は密接にそのファッションビジネスに活用することを目的とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の目的進め方	講義の内容、進め方などの説明	
2	ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽの解析	ファッションの内容にについて講義	テキストＰ34～Ｐ35
3	ﾌｧｯｼｮﾝ企業の実務入門	ファッションビジネスフローについて講義	テキストＰ35～Ｐ36
4	〃	ファッションビジネススタッフ、タイムテーブルについて講義	テキストＰ36～Ｐ39
5	ﾌｧｯｼｮﾝ企業の実務進行	コンセプトに決め方について講義	テキストＰ41～Ｐ45
6	モノづくりの実践基礎講座	営業予算～展示会迄を講義	テキストＰ48～Ｐ52
7	ﾌｧｯｼｮﾝ小売業の実務入門	小売店の構成要因～小売店の一日の流れについて講義	テキストＰ56～Ｐ65
8	接客販売の基本	アプローチ～アフターサービス迄の流れについて講義	テキストＰ68～Ｐ82
9	ｾｰﾙｽの基本	接客販売もパーソナルスタイリストの時代へについて	テキストＰ83～Ｐ88
10	〃	ファッションアドバイザーのお客様とのコミュニケーションについて	テキストＰ91～Ｐ98
11	ﾃﾞｨｽﾌﾟﾚｲの基本	売れる為の商品プレゼンテーションと場作りにについて講義	テキストＰ99～Ｐ100
12	〃	ディスプレイの基礎技術について講義	テキストＰ101～Ｐ103
13	繊維の基礎知識	繊維の種類、糸のいろいろについて講義	テキストＰ104～Ｐ106
14	〃	織物の基本、編物の基本について講義	テキストＰ107～Ｐ124
15	まとめ		

履修上の注意・関連科目等

特になし

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	％
レポート	☑有り □無し	６５％
試　　験		％
その他（出席状況等）	出席と授業態度	３５％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：2012

授業科目コード	５１－８	授業科目名	フードビジネス論	担当教員名	西　宗光

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	３	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

近年の世界的な経済不況と異常気象は未来に食物の確保の難しさを暗示している。その一方では、環境を考えた食スタイル、フードマイレージやロハスのように消費の環境問題にまで広まりを感じさせる。我が国では若者の個食文化や高齢社会による健康志向の高まりによるフード環境が多様化し、人々は安全な食の世界にさまざまな価値を見い出すべく食品開発と新製品に期待を寄せる。現代社会に求められる魅力ある食ビジネスの最前線を理解しフードビジネスで活躍する知識を幅広く講義する。

授業の目的・到達目標

広く食に関する知識と世界の食文化とサービスを総合的に学び、ホスピタリティの視点でフードサービス産業に従事する必要基本知識と感性を養う。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	履修オリエンテーション	学科・専攻・コース別履修ガイダンス	
２	フードビジネス概説	食物～消費、接客の基本、	プリント
３	フードビジネスの基礎	サービス・挨拶・接客会話・ホスピタリティ	プリント、
４	食品・食材の知識	概説・食材の特徴・食材の名詞／英語・仏語	テキストｐ.50
５	西洋料理	フランス料理・歴史・食材・メニュー	テキストｐ.32
６	西洋料理	イタリア料理・地方・食材・各国料理	テキストｐ.44
７	テーブルマナーとサービス	マナーと食卓、プロトコール	テキストｐ.198
８	中国料理	主な食材と乾貨、菜譜の読み方	テキストｐ.26
９	日本料理	歴と旬、献立、和食の魅力と形態分類	テキストｐ.13
１０	ビバレッジサービス	飲料分類、酒類分類、ワイン分類、酒の嗜好	テキストｐ.80
１１	ワイン・カフェビジネス	ワインの知識、ワインサービス、カフェ	テキスト、プリント
１２	調理器具・設備	調理の基本、厨房システム分類	テキストｐ.120
１３	フードマネジメント	経営の基本、業態開発、空間の演出	テキストｐ.236
１４	食の企画	ゲストの視点でとらえるフードビジネス	テキストｐ.273
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

ホスピタリティの基本になる笑顔・アイコンタクト・立ち姿・美しく挨拶（礼）を実践し身につける。
毎回、テキストに沿ったのオリジナル・プリントマテリアル配布。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り □無し	10　%
レポート	■有り □無し	10　%
試　験	内容、形式については、授業の中で説明する。	60　%
その他（出席状況等）	出席と授業参加度（実技・発表）を重視する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕①フードコーディネーター教本　　柴田書店　　価格 2800 円＋税

〔参考書・その他〕オリジナル・プリントマテリアル

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2011

授業科目コード	５１－９	授業科目名	ホテル・レストラン学	担当教員名	片山 昌子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日･時間	開設学科･専攻･コース
専門発展科目 キャリア･ビジネス	選択科目	３	後期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ･概要

観光庁の新設に伴い、訪日外国人誘致、国内観光誘致施策が国策として推進されており、観光産業の基幹産業である宿泊産業の活性化と拡大化が見込まれている。国内外の資本がグローバル規模で変動している宿泊産業の実態を認識し、それに対応できる人材育成に主眼を置いた授業をする。

授業の目的･到達目標

１．ホテル業（国内・外国資本）の現状とマーケット動向、組織の構成と実務、経営運営マネジメントの基礎知識と核となる要素を学ぶ。
２．ホスピタリティ産業（ホテル業を含む）の現場で対応できる基礎力を養い、実社会で働くための意識を高める。

授業内容･授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料
1	宿泊産業の今後の展望	1)講義の概要　2)日本の観光産業施策	PowerPoint
2	宿泊産業の経営形態と業態分類	日本・外国資本企業の比較と特性	〃
3	宿泊産業の発展史と経緯	日本と西洋の宿泊業を取り上げる	〃
4	ホテルの組織とオペレーション	宿泊部門	DVD 教材
5	ホテルの組織とオペレーション	料飲部門	〃
6	ホテルの組織とオペレーション	一般宴会部門、セールス部門	〃
7	ホテルの組織とオペレーション	ブライダル部門	PowerPoint
8	ホテルマーケティング基礎	市場調査、広報宣伝、顧客満足調査分析、等	〃
9	レベニューマネジメント	イールドマネジメント、等	〃
１０	H.R マネジメント	採用、教育、福利厚生(社会保険)、労務管理、等	〃
１１	リスクマネジメント	防火防災食中毒、ｺﾝﾌﾟﾗｲｱﾝｽ&CSR、クレーム対応	〃
１２	ホテル業界の最新動向	最新動向と課題	〃
１３	プロトコールと外国人客接遇	プロトコール(国際儀礼)の基本知識、等	DVD 教材
１４	食事の作法	日本料理、西洋料理、中国調理を取り上げる	PowerPoint
１５	まとめ	総括	〃

履修上の注意･関連科目等

社会人となった際に不可欠な基本的マナーを具備する人材育成の観点から、次の受講ルールを遵守して積極的な受講態度で学んでください。（受講ルール）①携帯電話電源オフ　②水・お茶以外の飲食禁止
③私語の多い学生は退室させる場合もある　④正当な理由のない遅刻者は欠席

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り　　授業の終わりに毎回小テスト実施（ノート持ち込み許可） □無し	３０　％
レポート	☑有り　　最終回に実施（課題は前もって通知する）（800 字程度／未提出者は失格） □無し	４０　％
試　　験		％
その他（出席状況等）	授業への積極的な参加態度を重視する	３０　％

教科書･参考書及び辞典等

〔テキスト〕
〔参考書・その他〕ホテル概論（JHRS)、新ホテル総論（日本ホテル教育センター)、
ホスピタリティのすすめその理論と実践（梅田出版)、等　授業時に適宜紹介する

オフィス･アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所･学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：２０１０

授業科目コード	５１－１０	授業科目名	インターンシップＩ	担当教員名	

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	２	後期	２	集中	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

企業等への短期の就業体験（２週間）によって社会的な見聞を広め、仕事に対する責任感と学習への意欲を高めるとともに、職業意識と将来への進路に対する自覚を養成する。

授業の目的・到達目標

インターンシップ生として就業体験を希望する者に対して、まず『オリエンテーション』を実施し、その後、「事前教育」としてビジネスマナーの習得や実習先の研究を行った後、夏季休暇、春季休暇等を利用した企業等での**「２週間の職場実習」**を体験する。

また、研修後は「事後教育」として報告書の作成や自らの実習体験の検証を行う。

授業内容・授業スケジュール

１．オリエンテーション
　①インターンシップの意義を理解する。
　②研修先の業界と社会環境を知る。
　③自らの大学での学習計画と職場との関わりを確認する。
２．事前教育
　①最低限のビジネスマナーを習得する。
　②実習先企業、その業界などの研究を深める。
　③自らの実習計画を作成する。

左の１．及び２．は授業科目である「ビジネス実務Ｉ」において行う。
インターンシップ参加予定者は必ず「ビジネス実務Ｉ」を単位取得すること。

３．職場実習
　①「２週間」の企業等での就業体験（職場実習）をする。
　②日常的な実習記録を作成し、実習内容を習得する。
４．事後教育
　①報告書（研修レポート）を作成する。
　②学内での「体験報告会」で自らの体験を発表する。
　③自らの実習体験を検証する。

履修上の注意・関連科目等

●履修上の注意
上記のテーマや目的を十分に理解し、就業体験に意欲的に取り組もうとする姿勢が必要である。

●関連科目等
夏季休暇、春季休暇等を利用した企業等でのインターンシップＩ（２週間の職場実習）を希望する者は、インターンシップ参加前に事前教育科目の『ビジネス実務Ｉ』の授業を単位取得すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	☑有り □無し	３０　％
実習評価	本人の実習記録日誌及び指導者によるコメント、実習先の評価表に基づく。	５０　％
その他（出席状況等）	上記の１．～４．までの全てのプログラムを修了した学生に対して評価を行う。職場体験だけに参加してもこの科目に対する評価は与えない。夏季、及び春季休暇中の実習体験であるため、科目履修と単位認定は次期のセメスターにおいて行う。	２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
オリエンテーションや事前教育において「インターンシップの手引」等の各種資料を配布する。

〔参考書・その他〕
これまでの体験者の報告書や企業等に関わる資料は、キャリアセンター（インターンシップ推進セクション）で参照することができる。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１０

授業科目コード	５１－１１	授業科目名	インターンシップⅡ	担当教員名	

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	３	前期	４	集中	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

企業等への短期の就業体験（４週間）によって社会的な見聞を広め、仕事に対する責任感と学習への意欲を高めるとともに、職業意識と将来への進路に対する自覚を養成する。

授業の目的・到達目標

「インターンシップⅠ」と同様に、夏季休暇等、春季休暇を利用した企業等での職場実習体験であるが、**研修期間が「４週間」**であるため、時間的にもゆとりある実習ができる。また自らが関心を持つ専門ビジネス分野やその業種、業界の幅広い研究が可能となり、この体験を基に、さらに長期インターンシップへの関心を深めて欲しい。

授業内容・授業スケジュール

１．オリエンテーション
　①インターンシップの意義を理解する。
　②研修先の業界と社会環境を知る。
　③自らの大学での学習計画と職場との関わりを確認する。
２．事前教育
　①最低限のビジネスマナーを習得する。
　②実習先企業、その業界などの研究を深める。
　③自らの実習計画を作成する。

左の１．及び２．は授業科目である「ビジネス実務Ⅰ」において行う。
インターンシップ参加予定者は必ず「ビジネス実務Ⅰ」を単位取得すること。

３．職場実習
　①「４週間」の企業等での就業体験（職場実習）をする。
　②日常的な実習記録を作成し、実習内容を習得する。
４．事後教育
　①報告書（研修レポート）を作成する。
　②学内での「体験報告会」で自らの体験を発表する。
　③自らの実習体験を検証する。

履修上の注意・関連科目等

●履修上の注意
　上記のテーマや目的を十分に理解し、就業体験に意欲的に取り組もうとする姿勢が必要である。
●関連科目等
　夏季休暇、春季休暇を利用した企業等でのインターンシップⅡ（４週間の職場実習）を希望する者は、インターンシップ参加前に事前教育科目の『ビジネス実務Ⅰ』の授業を単位取得すること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
レポート	☑有り □無し	３０　％
実習評価	本人の実習記録日誌及び指導者によるコメント、実習先の評価表に基づく。	５０　％
その他（出席状況等）	上記の１．～４．までの全てのプログラムを修了した学生に対して評価を行う。職場体験だけに参加してもこの科目に対する評価は与えない。夏季、及び春季休暇中の実習体験であるため、科目履修と単位認定は次期のセメスターにおいて行う。	２０　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
　オリエンテーションや事前教育において「インターンシップの手引」等の各種資料を配布する。
〔参考書・その他〕
　これまでの体験者の報告書や企業等に関わる資料は、キャリアセンター（インターンシップ推進セクション）で参照することができる。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１０

授業科目コード	５１－１２	授業科目名	キャリアサポート演習Ⅰ	担当教員名	國廣英司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

就職試験における対策とポイントについて、具体的事例を用いて説明する。

授業の目的・到達目標

一般常識試験の解法のポイントを学ぶ

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	筆記試験の概要	筆記試験の種類と特徴	
2	一般常識問題①	現代	
3	一般常識問題②	経済Ⅰ	
4	一般常識問題③	経済Ⅱ	
5	一般常識問題④	政治	
6	一般常識問題⑤	国際	
7	一般常識問題⑥	社会・生活	
8	一般常識問題⑦	地理・歴史	
9	一般常識問題⑧	文化・スポーツ	
１０	一般常識問題⑨	国語	
11	一般常識問題⑩	数学	
12	一般常識問題⑪	英語	
13	一般常識問題⑫	総合	
14	論作文	書き方のポイント	
15	まとめ	全体のまとめと試験の実施	

履修上の注意・関連科目等

テキスト・筆記用具持参のこと

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	☑有り □無し	%
レポート	□有り ☑無し	%
試　　験	最終授業時に実施	６０　%
その他（出席状況等）	出席及び授業への積極性を評価対象とする。	４０　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

『一般常識の完璧対策　２013 年度版』（日経就職ナビ編集部著、1,400 円）

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

授業科目コード	５１－１３	授業科目名	キャリアサポート演習Ⅱ キャリアサポート講座Ⅱ	担当教員名	水田聖一

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 キャリア・ビジネス	選択科目	1	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

国家資格に昇格した保育士資格を得るための講座

授業の目的・到達目標

保育士試験のための 10 教科(社会福祉、児童福祉、発達心理学、精神保健、小児保健、小児栄養、保育原理、教育原理、養護原理、保育実習)について学ぶ。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	保育原理	過去問題と解説	テキストに準じる
2	〃	〃	〃
3	教育原理	〃	〃
4	〃	〃	〃
5	発達心理	〃	〃
6	〃	〃	〃
7	児童福祉	〃	〃
8	〃	〃	〃
9	精神保健	〃	〃
１０	小児保健	〃	〃
１１	小児栄養	〃	〃
１２	保育実習	〃	〃
１３	社会福祉	〃	〃
１４	児童福祉	〃	〃
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

予習復習は欠かさず行ってください。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	■有り　　毎回簡単に振り返りを行うろ。 □無し	30　%
レポート	□有り ■無し	%
試　　験	テキストに準じた問題	40　%
その他（出席状況等）	休まず、遅れず、意欲的に	30　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

『保育士試験過去問オールチェック 2013 年度版』一ツ橋書房、1260 円

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

号館　　階　　　　内線

作成年度：2012

<table>
<tr><td>授業科目コード</td><td>５１－１４</td><td>授業科目名</td><td>プレ卒業研究</td><td>担当教員名</td><td>生活ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻
専任教員</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td colspan="2">科　目　区　分</td><td>配当年次</td><td>実施学期</td><td>単位</td><td>曜日・時間</td><td>開設学科・専攻・コース</td></tr>
<tr><td>専門発展科目</td><td>必修科目</td><td>3</td><td>後期</td><td>2</td><td>時間割
参照</td><td>生活マネジメント</td></tr>
</table>

授業のテーマ・概要

生活マネジメント専攻の専任教員が、それぞれの専門の立場から４年次の卒業論文の作成に必要な基礎知識をローテーションで指導する。

授業の目的・到達目標

書き方の約束や執筆手順、文献・資料の集め方や整理の方法など、論文作成の基本を学び、筋道を立てて自分の考えた意見を述べる能力を養う。

授業内容・授業スケジュール

<table>
<tr><td>回数</td><td>項目</td><td>内容（予復習指示等を含む）</td><td>使用資料（プリント等）</td></tr>
<tr><td>1</td><td>授業の概要</td><td>オリエンテーション</td><td></td></tr>
<tr><td>2</td><td>卒業論文のテーマ設定(その１)</td><td rowspan="12">４種類の論文作成の方法を学ぶ</td><td></td></tr>
<tr><td>3</td><td>論文の書き方の決まり(その１)</td><td></td></tr>
<tr><td>4</td><td>論文の書き方の決まり(その１)</td><td></td></tr>
<tr><td>5</td><td>卒業論文のテーマ設定(その 2)</td><td></td></tr>
<tr><td>6</td><td>論文の書き方の決まり(その 2)</td><td></td></tr>
<tr><td>7</td><td>論文の書き方の決まり(その 2)</td><td></td></tr>
<tr><td>8</td><td>卒業論文のテーマ設定(その 3)</td><td></td></tr>
<tr><td>9</td><td>論文の書き方の決まり(その 3)</td><td></td></tr>
<tr><td>１０</td><td>論文の書き方の決まり(その 3)</td><td></td></tr>
<tr><td>１１</td><td>卒業論文のテーマ設定(その 4)</td><td></td></tr>
<tr><td>１２</td><td>論文の書き方の決まり(その 4)</td><td></td></tr>
<tr><td>１３</td><td>論文の書き方の決まり(その 4)</td><td></td></tr>
<tr><td>１４</td><td>卒業論文発表会(聴講)</td><td>卒業論文の分野を決める</td><td></td></tr>
<tr><td>１５</td><td>卒業論文発表会(聴講)</td><td>卒業論文の分野を決める</td><td></td></tr>
</table>

履修上の注意・関連科目等

評価は、各教員が課すレポートと出席状況で行う。
出席を重視するので、休まぬ覚悟で来ること。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　各教員が課すレポートの評価を期末レポートの評価とする。 □無し	50　%
試　験		%
その他（出席状況等）		50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕
必要に応じて配布。

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

内線

作成年度：２０１２

授業科目コード	５２－１	授業科目名	卒業研究Ⅰ	担当教員名	清水尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	４	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学における勉学の集大成として、各自が選択したテーマについて研究し、卒業論文の執筆を行う。

授業の目的・到達目標

自らテーマに基づく研究計画をたて、4 年次までに習得した知識や技能を活用して仮説の検証を行い、通年で卒業論文にまとめる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
２	卒業論文の書式	執筆の手順について説明	
３	研究テーマの選定	研究方法について説明	
４	研究テーマの選定	情報検索について説明	
５	研究テーマの選定	情報の絞り込みについて説明	
６	研究テーマの選定	研究計画について説明	
７	研究テーマの選定	研究事情に応じたテーマの設定指導	
８	研究活動の実施	文献の収集について指導	
９	研究活動の実施	情報の検索について指導	
１０	研究活動の実施	情報の整理について指導	
１１	研究活動の実施	進捗状況の確認と研究計画の指導	
１２	研究活動の見直し	テーマの吟味について指導	
１３	研究活動の見直し	文献の収集について指導	
１４	研究活動の見直し	情報の検索について指導	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

生活とデザイン分野の科目を履修していることが望ましい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	％
レポート	☑有り　　命題の進捗状況報告書を評価する。 □無し	20　％
試　　験	提出期限までに提出された卒業論文の成果を評価する。	60　％
その他（出席状況等）	卒論発表の様子や課題に取り組む姿勢や出席状況を考慮する。	20　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考書・その他〕必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

3 号館 3 階　　443 内線

作成年度：2012

授業科目コード	５２－１	授業科目名	卒業研究Ⅰ	担当教員名	宮﨑　陽子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	４	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

卒業研究は、住居学についてこれまで習得した知識を基に、よりよい住生活の実現に関わる研究テーマを学生自らが設定し、一年をかけてその研究に取り組み論文にまとめるものである。卒業研究Ⅰでは主に文献学習（講読・発表・討論）を通して、住居の専門的視点と問題意識を深めテーマを探ってゆく。

授業の目的・到達目標

住生活をとりまく問題に着目しその改善のための研究課題や仮説を設定して、それらを文献や調査等によって立証する手順を、研究論文にまとめる全過程を通して習得することを目的とする。卒業研究Ⅰでは、研究テーマを設定し研究活動の全体像を明確にさせることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方等の説明／卒業論文とは	随時、必要資料を配付
2	研究テーマの探索(1)	関心のある研究領域・テーマの討論	随時、必要資料を配付
3	研究テーマの探索(2)	（同上）〈文献講読発表・①〉	テキスト・資料
4	研究テーマの探索(3)	テーマの研究目的・方法の意見交換	配布資料
5	先行研究の紹介(1)	関連文献･先行研究紹介と研究方法の検証〈文献②〉	テキスト・資料
6	先行研究の紹介(2)	（同上）〈文献③〉	テキスト・資料
7	先行研究の紹介(3)	（同上）〈文献④〉	テキスト・資料
8	研究内容の決定(1)	研究テーマの設定と､立証のための方法論の確定	配布資料
9	研究内容の決定(2)	（同上）〈文献⑤〉	テキスト・資料
１０	研究計画の作成	各自の研究計画を作成	配布資料
１１	調査の企画(1)	調査対象や調査実施方法などの選定〈文献⑥〉	テキスト・資料
１２	調査の企画(2)	調査フレームの検討及び調査票の設計	配布資料
１３	調査の企画(3)	（同上）〈文献⑦〉	テキスト・資料
１４	調査の実施準備	調査票の完成とプリ調査〈文献⑧〉	テキスト・資料
１５	まとめ	分析モデルの設定（仮説）と再検討	配布資料

履修上の注意・関連科目等

卒業研究は大学での学びの集大成です。問題意識を持って住生活を見つめ、その解決への課題や手順を主体的に考え、物事を論理的に捉える力を身につけることが求められます。担当教員と連携して議論を深めながら、積極的に取り組んでいきましょう。なお、家庭科教育に関する研究テーマも可能です。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	%
レポート	■有り　　文献学習のレジュメ、研究テーマのレポートの作成 □無し	50　%
試　　験		%
その他（出席状況等）	出席状況や卒論研究への意欲・態度及び内容を総合して評価する。	50　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

「新・住居学［改訂版]」（渡辺光雄・高阪謙次編著、ミネルヴァ書房、）

〔参考書・その他〕

授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

３号館　２階　　　　　内線　４２７

作成年度：2011

授業科目コード	５２－１	授業科目名	卒業研究Ⅰ	担当教員名	向出　佳司

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	４	前期	２	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学での集大成としての卒業論文を作成するために、各人のテーマについて研究し、そのための研究目的や方法について学ぶ

授業の目的・到達目標

卒業論文のテーマを決定し、研究目的や方法について学ぶ

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
１	オリエンテーション	卒業研究について	
２	卒業論文について	「論文の書き方」	
３	卒業研究のテーマ	各人の関心あるテーマについて討議	
４	卒業研究のテーマ	各人の関心あるテーマについて討議	
５	卒業研究のテーマ	各人の関心あるテーマについて討議	
６	文献検索	各人のテーマについて検索	
７	文献検索	各人のテーマについて検索	
８	文献報告１	先行研究について各人の発表	
９	文献報告２	先行研究について各人の発表	
１０	文献報告３	先行研究について各人の発表	
１１	フィールドワーク１	インタビューの手法と質問項目の作成	
１２	フィールドワーク２	インタビューのアポイントメントと方法	
１３	フィールドワーク３	インタビューの実際	
１４	各自のテーマの決定	各自のテーマについての執筆	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	％
レポート	□有り □無し	％
試　　験		％
その他（出席状況等）	出席を重視する	％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

２　号館　３　階　　　　　内線　３２３

作成年度：２０１１

授業科目コード	５２－２	授業科目名	卒業研究Ⅱ	担当教員名	清水尚子

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学における勉学の集大成として、各自が選択したテーマについて研究し、卒業論文の執筆を行う。

授業の目的・到達目標

自らテーマに基づく研究計画をたて、4 年次までに習得した知識や技能を活用して仮説の検証を行い、通年で卒業論文にまとめる。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	授業の概要	授業の進め方・留意点などの説明	
2	研究活動の中間報告	進捗状況の報告による執筆指導	
3	卒業論文の執筆	論文の書き方（記述の順序）について説明	
4	卒業論文の執筆	論文の書き方（図表の活用）について説明	
5	卒業論文の執筆	論文の書き方（表記の規則）について説明	
6	卒業論文の執筆	序論の執筆指導	
7	卒業論文の執筆	本論の執筆指導	
8	卒業論文の執筆	結論の執筆指導	
9	卒業論文の執筆	引用文献の執筆指導	
１０	卒業論文の執筆	卒業論文の清書を指導	
１１	卒業論文の執筆	卒業論文の校正を指導	
１２	卒業論文の執筆	卒業論文の清書を指導	
１３	卒業論文の執筆	卒業論文の校正を指導	
１４	卒業論文発表会準備	レジュメの作成を指導	
１５	まとめ	全体の理解度の確認と授業総括	

履修上の注意・関連科目等

生活とデザイン分野の科目を履修していることが望ましい。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ☑無し	%
レポート	☑有り　　命題の進捗状況報告書を評価する。 □無し	20　%
試　　験	提出期限までに提出された卒業論文の成果を評価する。	60　%
その他（出席状況等）	卒論発表の様子や課題に取り組む姿勢や出席状況を考慮する。	20　%

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕プリントを配布する。

〔参考書・その他〕必要に応じて授業中に紹介する。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

3 号館 3 階　　443 内線

作成年度：2012

授業科目コード	５２－２	授業科目名	卒業研究Ⅱ	担当教員名	宮﨑　陽子

科　目　区　分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

卒業研究は、住居学(含む家庭科教育学)についてこれまで習得した知識を基に、よりよい住生活の実現に関わる研究テーマを学生自らが設定し、一年をかけてその研究に取り組み論文にまとめるものである。卒業研究Ⅱでは各自の研究テーマについて調査・分析・考察をし、研究論文の執筆及び発表を行う。

授業の目的・到達目標

住生活をとりまく問題に着目しその改善のための研究課題や仮説を設定して、それらを文献や調査等によって立証する手順を、研究論文にまとめる全過程を通して習得することを目的とする。卒業研究Ⅱでは、研究テーマについての分析・考察を深め、卒業論文にまとめることを目標とする。

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	オリエンテーション	授業の概要や進め方等の説明	
2	研究テーマの確認	本調査実施の経過報告と研究計画の再検討	
3	集計作業(1)	調査票の点検とコーディング	
4	集計作業(2)	調査データの入力作業	
5	集計結果の分析(1)	データの一次分析・考察と要点の整理	
6	集計結果の分析(2)	（同上）	
7	集計結果の分析(3)	データの二次分析・考察と要点の整理	
8	集計結果の分析(4)	（同上）	
9	論文構成の検討	論文の章構成骨格の検討と主論点の確定	
１０	考察結果の論述(1)	考察結果を整理して項・目レベルの要旨を執筆	
１１	考察結果の論述(2)	（同上）	
１２	論文の執筆(1)	論文の体系の確定と論文の草稿執筆	
１３	論文の執筆(2)	（同上）	
１４	論文の執筆(3)	論文の浄書作業　／発表の準備（PP･要旨･発表文）	
１５	まとめ（研究発表）	卒業研究の内容を公表する（PP･要旨･発表文）	

履修上の注意・関連科目等

卒業研究は大学での学びの集大成です。問題意識を持って住生活を見つめ、その解決への課題や手順を主体的に考え、物事を論理的に捉える力を身につけることが求められます。担当教員と連携して議論を深めながら、積極的に取り組んでいきましょう。上記スケジュールは分析手法により異なります。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り ■無し	％
レポート	□有り ■無し	％
試　　験		％
その他（出席状況等）	出席状況や卒論研究への意欲・態度及び論文内容を総合して評価する。	100　％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

特にありません。

〔参考書・その他〕

授業内で紹介します。

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：2011

授業科目コード	５２－２	授業科目名	卒業研究Ⅱ	担当教員名	向出　佳司

科目区分		配当年次	実施学期	単位	曜日・時間	開設学科・専攻・コース
専門発展科目 卒業研究	必修科目	4	後期	2	時間割 参照	生活マネジメント専攻

授業のテーマ・概要

大学での集大成としての卒業論文を作成するために、各人のテーマについて研究し、そのための研究目的や方法について学ぶ

授業の目的・到達目標

卒業論文のテーマを決定し、研究目的や方法について学ぶ

授業内容・授業スケジュール

回数	項目	内容（予復習指示等を含む）	使用資料（プリント等）
1	研究テーマの実施		
2	研究テーマの実施		
3	研究テーマの実施		
4	研究テーマの実施		
5	研究テーマの実施		
6	研究テーマの実施		
7	研究テーマの実施		
8	研究テーマの実施		
9	研究テーマの実施		
１０	研究テーマの実施		
１１	論文の仕上げ		
１２	論文の仕上げ		
１３	論文の仕上げ		
１４	論文の仕上げ		
１５	卒業研究の成果報告		

履修上の注意・関連科目等

私語や途中入室、退室は厳に慎むこと。

試験と評価

項目	内容等	評価割合
小テスト	□有り □無し	％
レポート	□有り □無し	％
試　　験		％
その他（出席状況等）	出席重視	％

教科書・参考書及び辞典等

〔テキスト〕

〔参考書・その他〕

オフィス・アワー　※別紙オフィスアワーの一覧を参照してください。

研究室の場所・学内電話番号

作成年度：２０１１